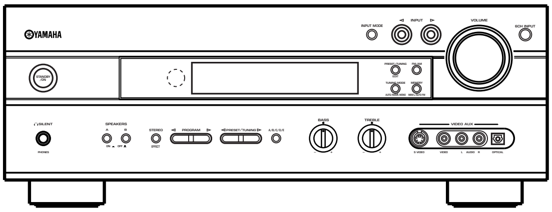
YAMAHA

DSP AVアンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX630



取扱説明書

ヤマハ DSP AVアンプDSP-AX630をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書をご確認ください

保証書に販売店名、購入日などが記入されておりませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがあります。

安全上のご注意(安全に正しくお使いいただくために)

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

- △ 気をつけなければならない内容を表しています。たとえば⚠は「感電注意」を示しています。
- ⊘ してはいけない行為を表しています。たとえば⊘は「分解禁止」を示しています。
- ● 必ずしなければならない行為を表しています。たとえば●は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示しています。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。　• 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室･台所･海岸･水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水滴の混入により火災や感電の原因となります。

接触禁止

雷がなりはじめたらアンテナや電源プラグには触れない。

感電の原因となります。

分解禁止

分解･改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因となります。
修理･調整は販売店にご依頼ください。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん･カーペットの上には設置しない。
- あおむけや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(少なくとも本機の左右20cm、上30cm、背面10cm以上離して設置してください。)

本機の内部に熱がこもり火災の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を追う可能性が想定される内容を示しています。

禁止

本機の電源供給コンセントに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因となります。

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因となります。

必ず行う

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検を依頼してください。

そのまま使用すると火災や感電の原因となります。

禁止

AC100V　50/60Hz以外の電源電圧では使用しない。

火災や感電の原因となります。

必ず行う

電源プラグのゴミやほこりは定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けるとプラグがショートして火災や感電の原因となります。

禁止

本機の通風孔にものを入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因となります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

- 水や異物が中に入ると、火災や感電の原因となります。
- 接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因となります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒してけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因となることがあります。

必ず行う

電源を入れる前や再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て聴力障害等の原因となることがあります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続をはずす。
- 接続機器が落下や転倒してけがの原因となることがあります。
- コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴力障害の原因となることがあります。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

必ず行う

電池は極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また種類の異なる電池や新しい電池と古い電池をいっしょに混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより火災やけがの原因となることがあります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となることがあります。

プラグを抜く

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜いて行う。

感電の原因となることがあります。

注意

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

それらの製品とはできるだけ離して設置してください。

必ず行う

電源プラグはコンセントに根もとまで確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを差し込んだときゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱・火災の原因となることがあります。

注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

注意	**環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。** 正常に動作しないときには、電源を入れたまましばらく放置してください。
禁止	**薬物厳禁** **ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。** 外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。
必ず行う	**屋外アンテナ工事には、技術と経験が必要です。販売店にご依頼ください。**
注意	**年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご依頼ください。** ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因となることがあります。
必ず行う	**重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行う。** けがの原因となることがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

目次

本機の特長

高音質ハイパワー6チャンネルアンプを搭載

◆ 定格出力
(20 Hz～20 kHz, 歪率0.06%, 6Ω)
メインチャンネル(L、R): 75 W + 75 W
センターチャンネル: 75 W
リアチャンネル(L、R): 75 W + 75 W
リアセンターチャンネル: 75 W

「シネマDSPエンジン」内蔵のマルチモードDSP

◆ ドルビープロロジックデコーダー
／ドルビープロロジックIIデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
／ドルビーデジタルEXデコーダー
◆ DTSデコーダー
／DTS-ESコンパチブルデコーダー
◆ AACデコーダー
◆ シネマDSP: ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)、AAC(アドバンストオーディオコーディング)の融合
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できるサイレントシアター機能

高機能FM/AMステレオチューナー

◆ オートプリセット選局

AVアンプにふさわしい多機能構成

◆ 96-kHz/24-bit D/Aコンバーター
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができる11項目のセットメニュー
◆ 複数のスピーカーの音量バランス調節を容易にするテストトーン
◆ DVDオーディオやその他のデコーダーにも対応できる6CH INPUT端子
◆ OPTICAL(光)デジタル入出力端子とCOAXIAL(同軸)デジタル入力端子
◆ スリープタイマー
◆ メーカーコード設定機能対応リモコン
◆ S ビデオ入出力端子
◆ コンポーネントビデオ入出力端子

■ 本書の記載について

● は操作上のアドバイスなど補足的な説明です。
● 本書では本体とリモコンのどちらでも操作できるが本体とリモコンのボタン名が異なる場合は、リモコンのボタン名を括弧内に表記しています。
● 本取扱説明書は製品開発に先がけ印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
● 説明の便宜上、文中のイラスト等が実際の製品と異なる場合があります。

以下はパテントナンバーです。

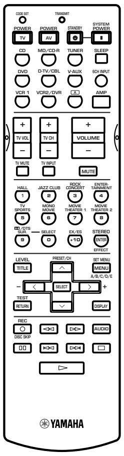
08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

ご使用の前に

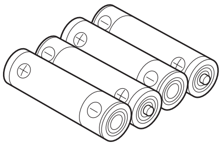
付属品を確認する

同梱されている付属品を確認してください。

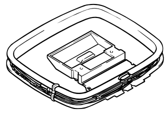
リモコン



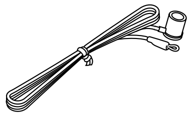
単4乾電池（4本）



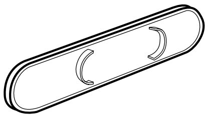
AMループアンテナ



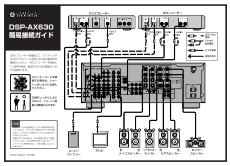
FM簡易アンテナ



VIDEO AUX 端子
保護用キャップ

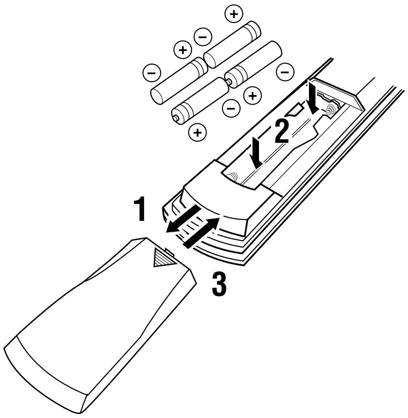


簡易接続ガイド



リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる



1 リモコンの裏ぶたの マークを押しながら、電池カバーを取りはずす。

2 付属の単4乾電池（4本）を、リモコンの電池ケース内の表示にあわせて、プラス（+）とマイナス（−）の向きを間違えないように、正しく入れる。

3 裏ぶたを閉じる。
電池ケース内の表示に従って、プラス(+)とマイナス(−)の向きを間違えないように正しく入れてから、裏蓋を閉める。

リモコンの乾電池についてのご注意

- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる乾電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。

乾電池が消耗したときは、交換してください

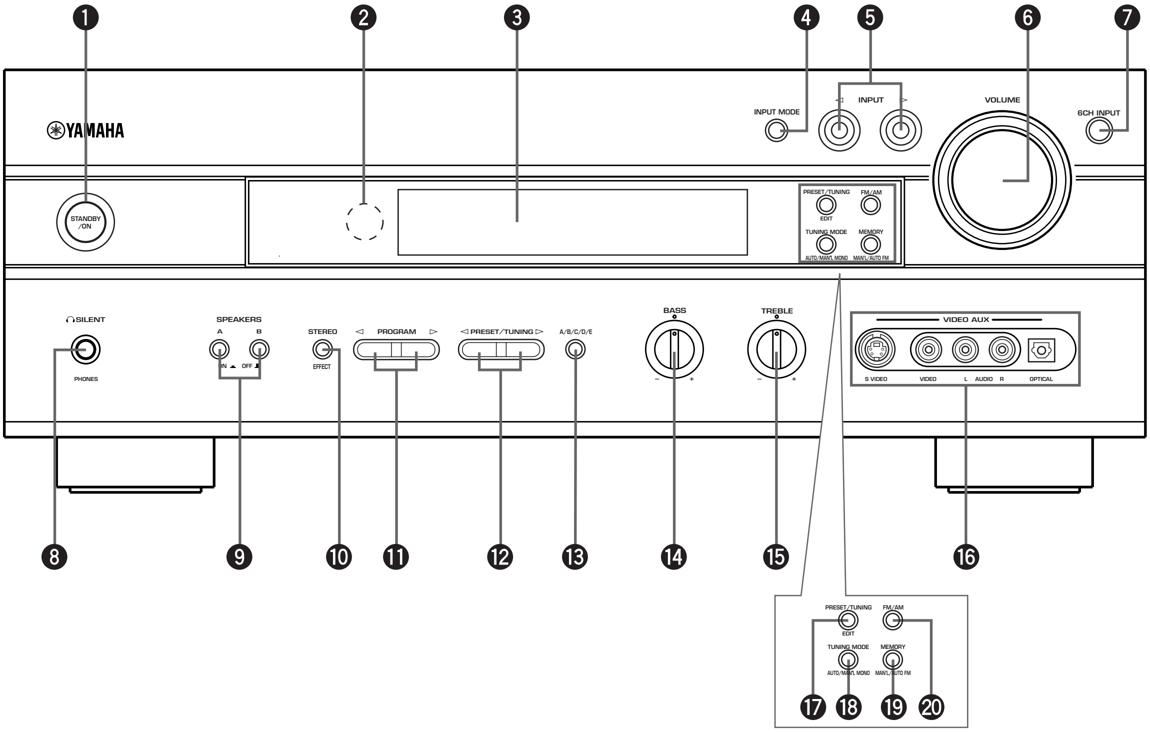
乾電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなったり、キーを押してもインジケーターが点灯しなくなったりします。このような場合は、すべて新しい乾電池に交換してください。

ご注意

- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 電池を外したまましばらく(2分以上)放置したり、消耗した乾電池をリモコンにそのまま入れておくと、リモコンに登録したメーカーコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、メーカーコードをセットアップしください。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



❶ STANDBY/ONスイッチ

本機の電源の入／待機（スタンバイ）を切り替えます。

なお、電源を入れて数秒間は音が出ません。

スタンバイモード中は、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。

❷ リモコン受光窓

付属リモコンからの信号を受信します。

❸ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定値などを表示します。

❹ INPUT MODEキー

同じ機器を複数の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定できます。

❺ INPUT ⊲ / ⊳ キー

再生したい入力信号を選びます。

❻ VOLUMEコントロール

全体の音量を調節します。

録音用のOUT (REC) 端子の音量レベルには影響しません。

❼ 6CH INPUTキー

6CH INPUT端子に入力されている信号を選びます。INPUT ⊲ / ⊳ キーやリモコンの入力選択キーで選んだ入力ソースよりも優先されます。

❽ PHONES端子

ヘッドホンを接続します。深夜に音声を楽しまれる際は、ヘッドホンをお使いくださるようお勧めします。ヘッドホン接続時は、サイレントシアターで音声を楽しめます。

ご注意

- ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーから音が出ません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、メインL、Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。

❾ SPEAKERS A/Bスイッチ

音声を出力するメインスピーカーの系統(AとB)を選びます。

❿ STEREO/EFFECTキー

通常のステレオ音声とDSP効果音を切り替えます。STEREOを選択すると、DSP効果音のない音声がメインL、R スピーカーから出力されます。

ご注意

- 音場効果が「切」の状態のときにドルビーデジタルやDTS、AAC音声を再生すると、LFEを除くすべてのチャンネルの音声がメインのL、Rチャンネルにミックスされて出力されます。この場合、メインL、Rチャンネルの音量バランスが乱れることがあります。
- セットメニューの「1B MAIN」をSMALLかつ「1D BASS」をSWFR、または「1D BASS」をBOTHに設定している場合は、スーパーウーファーから低音域が出力されます。

⓫ PROGRAM ◁ / ▷ キー

DSPプログラムを選択します。

⓬ PRESET/TUNING ◁ / ▷ キー

ディスプレイのバンド(FMまたはAM)表示のとなりに「:」が点灯している際に、1-8の登録(プリセット)局番号を選択します。受信したい放送局を選びたいときは「:」の表示を消してください。

⓭ A/B/C/D/Eキー

FM/AM放送を聴くときに、プリセットグループ(A、B、C、D、E)を選びます。

⓮ BASS（低域）コントロール

メインL、Rチャンネルの音声の低音域を調節します。右(＋)に回すと低音域が強調され、左(－)に回すと減衰されます。

⓯ TREBLE（高域）コントロール

メインL、Rチャンネルの音声の高音域を調節します。右(＋)に回すと高音域が強調され、左(－)に回すと減衰されます。

ご注意

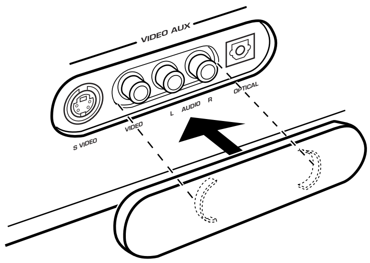
トーンコントロールにより、メインチャンネルを極端にブースト(増強)、またはカット(減衰)した場合、メインL、Rとセンター、リア(エフェクト)スピーカーの間で、音のつながりが悪くなることがあります。

⓰ VIDEO AUX端子

ゲーム機やビデオカメラレコーダーなどを接続する予備入力端子です。

この端子から信号を入力する場合には、入力選択キーにて「V-AUX」を選んでください。

接続時以外は下図のように付属のVIDEO AUX端子保護用キャップをはめてください。キャップを取り外した際には、なくさないようにご注意ください。



⓱ PRESET/TUNING（EDIT）キー

選局するときに、あらかじめ登録(プリセット)した局から選ぶか、または直接選局するのかを切り替えます。ディスプレイのバンド(FMまたはAM)表示のとなりに「:」が点灯しているときはプリセット選局、消灯しているときは直接選局になります。

また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います。

⓲ TUNING MODE（AUTO/MAN'L MONO）キー

手動(マニュアル)選局または自動(オート)選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押してAUTO表示を点灯させます。手動選局する場合は、AUTO表示を消します。

⓳ MEMORY（MAN'L/AUTO FM）キー

受信した放送局を登録(プリセット)します。3秒以上押すと、オートプリセット機能を利用できます。

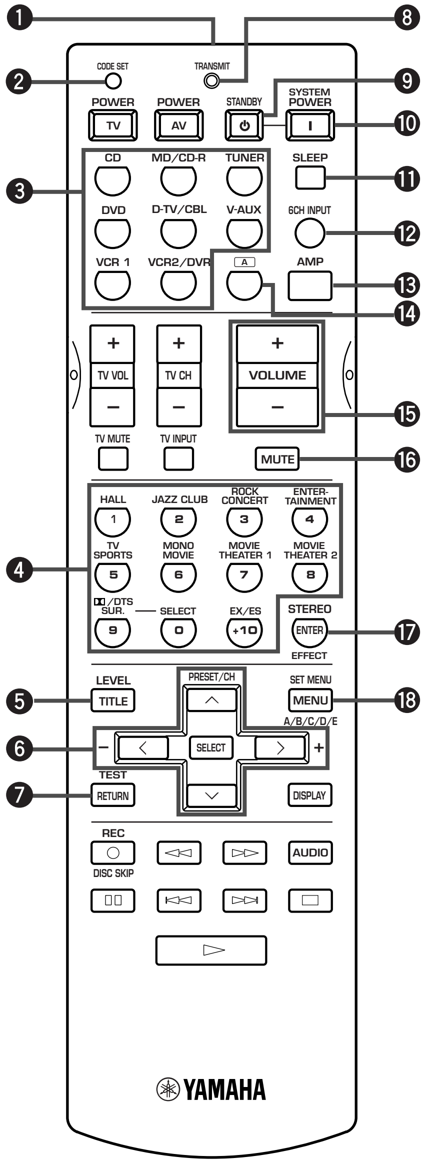
⓴ FM/AMキー

FM放送、 AM放送受信を切り替えます。

リモコン

本機を操作するときのリモコン各部の名称とはたらきについて説明します。本機を操作するときは、最初にAMPモードキーを押してください。

リモコンによる操作について詳しくは、「付属リモコンのはたらき」(49〜51ページ)をご覧ください。



❶ 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します。送信できる範囲については、「リモコンの使用について」(7ページ)をご覧ください。

❷ CODE SET(コード セット)キー

メーカーコードを設定します。

❸ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます。入力ソースにあわせて、リモコンの機能も切り替わります。

ご注意

接続した機器を本リモコンで操作するには、お使いになる前に、接続した機器に合ったメーカーコードを設定する必要があります。

❹ DSPプログラムキー

DSPプログラムを選択します。キーを繰り返し押すと、各グループ内のプログラムを選択できます。

❺ LEVEL(レベル)キー

センター、リア、スーパーウーファーの各チャンネル出力を調節します。

❻ カーソルキー

セットメニューの選択や設定などをします。

❼ TEST(テスト)キー

テストトーンを出力します。

❽ TRANSMIT(トランスミット)インジケーター

リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに、点灯します。

❾ STANDBY(スタンバイ)キー

本機をスタンバイ(待機状態)にします。

❿ SYSTEM POWER(システム パワー)キー

本機の電源を入れます。

⓫ SLEEP(スリープ)キー

スリープタイマーを設定します。

⓬ 6CH INPUT(チャンネル インプット)キー

6CH INPUT 端子に接続したオーディオソース(機器)を選択します。

⓭ AMP(アンプ)キー
リモコンの機能を本機の操作用に切り替えます。

⓮ A キー
設定により、本機の入力ソースを切り替えずに他の機器を操作できます。

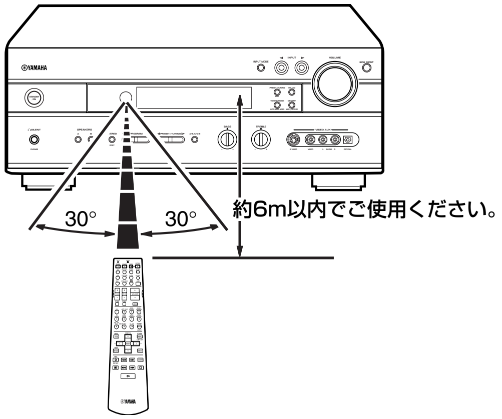
⓯ VOLUME(ボリューム)＋／－キー
本機の音量を調節します。

⓰ MUTE(ミュート)キー
消音します。もう1度押すと、元の音量に戻ります。

⓱ STEREO(ステレオ)/EFFECT(エフェクト)キー
通常のステレオ音声と音場効果を加えた音声を切り替えます。STEREO を選択すると、音場効果を加えない音声がメイン L 、R スピーカーから出力されます。

⓲ SET(セット) MENU(メニュー)キー
セットメニューモードを選択します。

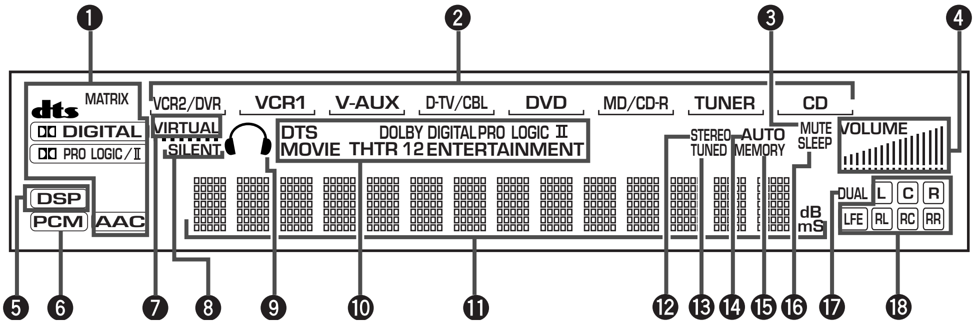
リモコンの使用について



リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

リモコンの取り扱いについてのご注意
- 水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
  －ストーブのそばや風呂場など、温度･湿度の高いところ。
  －ほこりの多いところ。
  －極端に寒いところ。

ディスプレイ



❶ デコーダー表示
本機内蔵のデコーダーが作動中に、それぞれの表示が点灯します。

❷ 入力ソース表示
現在のソース表示下部に ＿＿＿ が点灯します。

ミュート
❸ MUTE表示
消音状態のときに点滅します。

ボリューム
❹ VOLUME表示
現在の音量を表示します。音量が大きくなるにつれて右側に表示が増えて行きます。

ディーエスピー
❺ DSP表示
DSP音場プログラムを選ぶと点灯します。

ピーシーエム
❻ PCM表示
PCM信号を再生中に点灯します。

バーチャル
❼ VIRTUAL表示
バーチャルシネマDSP時に点灯します。

サイレント
❽ SILENT表示
サイレントシアター時に点灯します。

❾ ヘッドホン表示
PHONES端子にヘッドホンを接続すると点灯します。

❿ 音場プログラム表示
音場プログラムを選んだときに、それぞれの表示が点灯します。

⓫ 音場プログラム名/設定値表示/周波数表示
音場プログラム名や各種設定値、放送局の周波数やプリセット番号を表示します。

ステレオ
⓬ STEREO表示
AUTO表示が点灯しているときに、電波の強いFMステレオ放送を受信すると点灯します。

チューンド
⓭ TUNED表示
FM/AM放送が受信されたときに点灯します。

オート
⓮ AUTO表示
チューナーをオート選局にすると点灯します。

メモリー
⓯ MEMORY表示
放送局を登録（プリセット）するときに点滅します。

スリープ
⓰ SLEEP表示
スリープタイマーの作動中に点灯します。

デュアル
⓱ DUAL表示
ドルビーデジタルや、AACのDUAL MONOまたはMULTI MONOなど、音声多重モノラルのデジタル信号入力時に点灯します。

⓲ 入力信号チャンネル表示
再生ソースのデジタル信号に含まれる、音声チャンネルに対応した表示が点灯します。

スピーカーを準備する

本機は6スピーカーシステムに対応しています

本機はメインスピーカーL、R（2本）、センタースピーカー（1本）、リアセンタースピーカー（1本）、リアスピーカーL、R（2本）の6スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるよう設計されています。

メインスピーカーはメインチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力し、リアスピーカーL、Rはサラウンドと効果音、リアセンタースピーカーはサラウンド、センタースピーカーは会話やボーカルなど画面中央に定位する音を出力します。スピーカーモードの設定により、最小2スピーカーシステムからの再生が可能ですが、6スピーカーシステムにおいて、最も良い音場効果が得られます。

ご注意

6スピーカーシステムでお使いにならないときは、お使いになるシステムにあわせて、スピーカーモードを設定してください。

本機と接続するスピーカーを選ぶポイント

- 各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーの使用をおすすめします。
- 同一メーカーが同じ時期に販売しているシリーズのスピーカーで、スピーカーシステムを揃えることをおすすめします。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーA、Bを同時に鳴らす場合は、1台につき12Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

スーパーウーファーで低音域の音響効果を向上できます

別売りのスーパーウーファーをご使用になると、さらに音響効果を向上させることができます。スーパーウーファーは低音を強調するだけでなく、ドルビーデジタルやDTS、AACに含まれるLFE信号を正確に再現することができます。臨場感の優れた低音出力には、ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムのご使用をおすすめします。

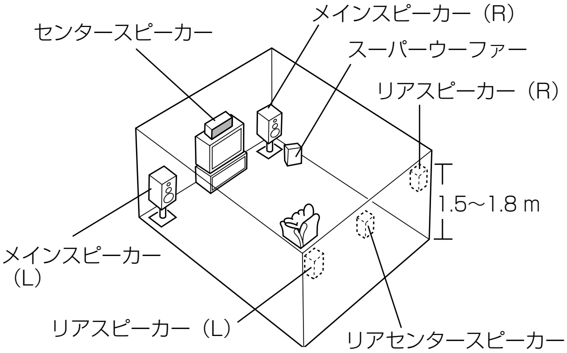
スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください

防磁型以外のスピーカーを使用すると、モニター（テレビ）に映る映像が乱れることがあります。特に画面近くに設置する必要のあるセンタースピーカーやスーパーウーファーには、防磁型スピーカーのご使用をおすすめします。

防磁型スピーカーをお使いの場合でもモニター（テレビ）の映像が乱れるときは、スピーカーをモニター（テレビ）と離して設置してください。

スピーカーの設置場所を決める

スピーカーは下図のように配置してください。



メインスピーカー（L、R）

ステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビ（モニター）は、左右のスピーカーの中央に設置するようにしてください。

センタースピーカー

メインスピーカーの中間に設置します。テレビ（モニター）を設置している場合は、テレビ（モニター）画面とスピーカーの前面を揃え、テレビ（モニター）の上や下など、できるだけテレビ（モニター）画面に近いところの中央に設置します。

リアスピーカー（L、R）

後方斜め、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床に直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

リアセンタースピーカー

後方からスピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。フロアーに直接座って聴く場合は、床から約1.5m、椅子に座って聴く場合は、床から約1.8mの高さが適当です。

スーパーウーファー

前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。低音の聴こえ方は、スピーカーを置く位置と聴く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

スピーカーを接続する

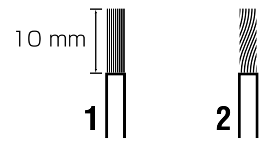
接続する際に、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、「＋」(赤)、「－」(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋、－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音になります。

注意

- スピーカーコードを接続する場合、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、本機の保護回路が働いて自動的にスタンバイ状態になりますが、故障の原因になる恐れがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、保護回路が働いたり、故障する恐れがあります。

接続が終わったら、お使いのスピーカーの数や性能に応じて、セットメニューのスピーカーモードを設定してください。

■ スピーカーコードを準備する



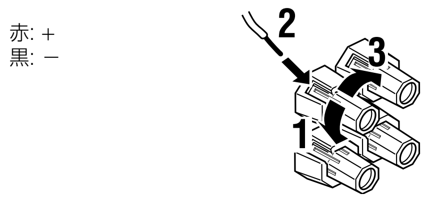
一般的にスピーカーコードは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。

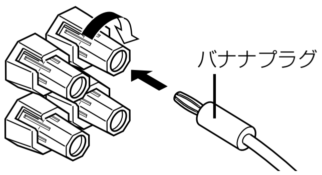
1 **スピーカーコード先端の絶縁部（被覆）を、10mm位はがす。**

2 **芯線をしっかりとよじる。**

しっかりよじらないと、ショート(短絡)の原因になります。

■ スピーカーコードを接続する





1 **スピーカー端子を左に回してゆるめる。**

2 **スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーコードの芯線を差し込む。**

3 **スピーカー端子を右に回して、締め付ける。**

ご注意

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

■ MAIN（メイン） SPEAKERS（スピーカー）端子

メインスピーカーを接続します。

■ REAR（リア） SPEAKERS（スピーカー）端子

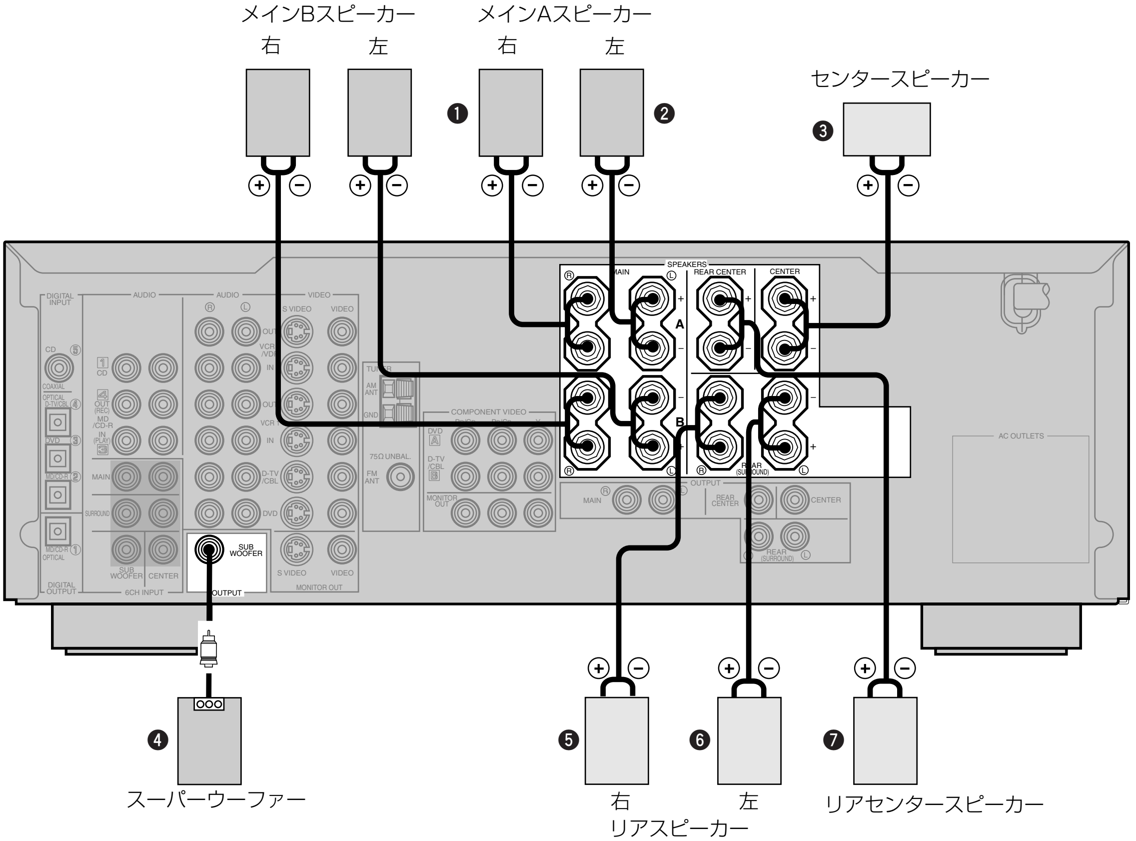
リアスピーカーを接続します。

■ CENTER（センター） SPEAKERS（スピーカー）端子

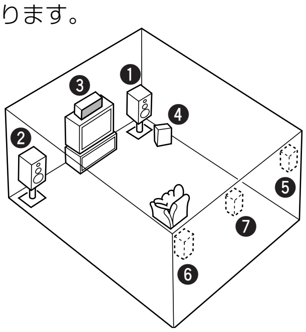
センタースピーカーを接続します。

■ REAR（リア） CENTER（センター） SPEAKER（スピーカー）端子

リアセンタースピーカーを接続します。



リスニングルーム内の各スピーカーの配置は、下図のようになります。



■ アンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。
メイン、センターおよびリアチャンネルからの90Hz以下の低音域の信号はこの端子に送られます。ドルビーデジタル、DTS、AACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ヒント

- SUBWOOFER端子からの出力レベルはセットメニューで設定できます。また、お使いのスーパーウーファーに付属する取扱説明書もご覧の上、スーパーウーファー自体の音量レベルも調節してください。
- 低音の聞こえかたはスーパーウーファーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

ご注意

セットメニュー「1 SPEAKER SET」と「2 LFE LEVEL」の設定によっては、SUBWOOFER端子から音声信号が出力されない場合もあります。

接続のしかた

接続する前に

注意

- 接続する前に、本機および接続する機器の電源を必ず切るか、スタンバイ状態にしてください。
- 右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)などを確認して正しく接続してください。接続する機器によっては接続方法や端子の名前が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

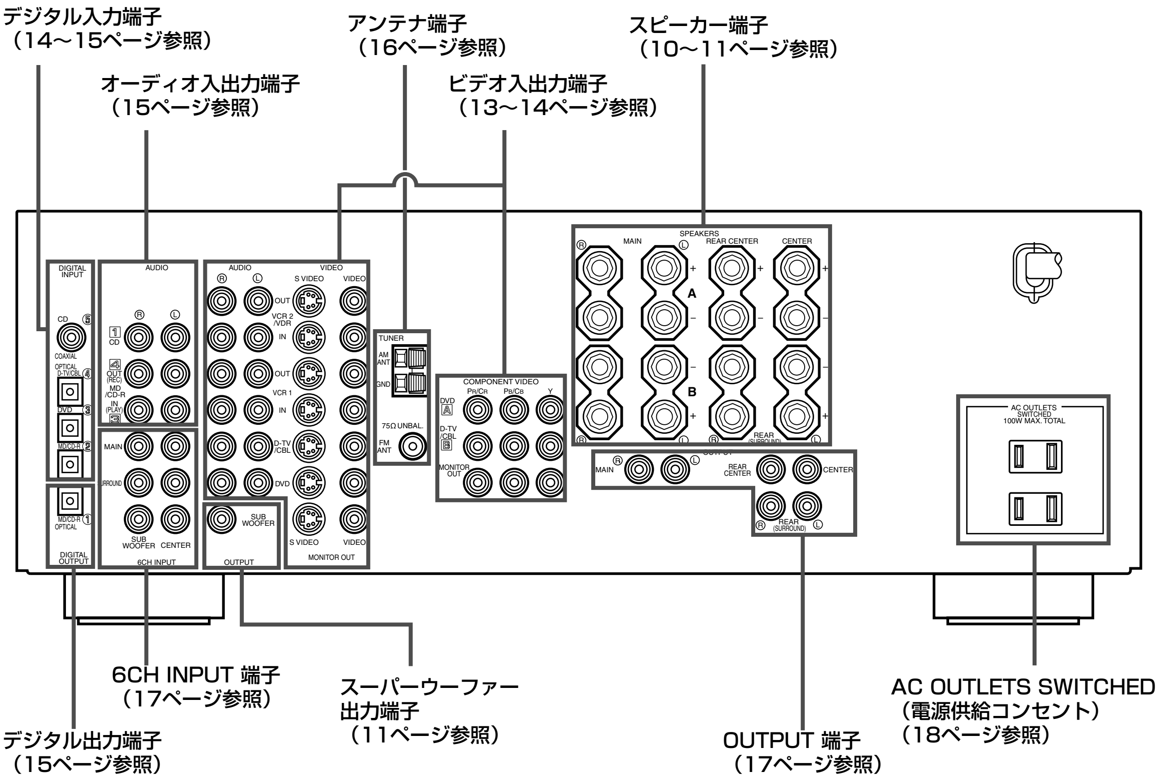
- 弊社製のCDプレーヤーやテープデッキなどを接続する場合は、各機器と本機の同じ番号(1、3、4など)のついた端子を接続してください。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。
- 端子名は入力選択キーに対応しています。

■ デジタルオーディオ入出力端子を持つ機器を接続するときは

- 本機は、COAXIAL(同軸)や光ファイバーケーブル経由でデジタル信号を直接入力できるデジタル端子を装備しています。
- PCM、ドルビーデジタル、DTS、及びAACの各信号方式に対応しています。
- デジタル端子はPCM/ドルビーデジタル/DTS/AAC兼用です。
- デジタル接続すると、DVDソフトのマルチチャンネルサウンドトラックに音場効果を加えてお楽しみいただけます。全デジタル入力端子はサンプリング周波数96kHzのデジタル信号に対応します。

ご注意

- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はDIGITAL OUTPUT端子からのみ出力されます。
- 同じ入力系統のCOAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号が優先されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に作動しないことがあります。

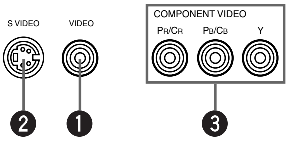


ビデオ機器を接続する

具体的な接続例については次ページをご覧ください。

■ 本機のビデオ端子について

❶❷❸のビデオ端子を装備しています。



テレビまたはモニターに映像を正しく表示するためには、接続した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

❶ **VIDEO端子:** 通常の映像信号を接続します。

❷ **S VIDEO端子:**
Sビデオ信号を接続します。Sビデオ信号は輝度信号(Y信号)と色信号(C信号)に分かれているため、より美しい映像を楽しめます。

❸ **COMPONENT VIDEO端子:**
コンポーネントビデオ信号を接続します。コンポーネントビデオ信号は輝度信号(Y信号)と色差信号(P_B/C_BおよびP_R/C_R信号)の3系統に分かれているため、映像の色をより忠実に再現できます。

ご注意

- 本機では、COMPONENT VIDEO端子とS VIDEO端子、VIDEO端子間の信号は独立しています。VIDEO端子から入った信号はVIDEO端子に、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に、COMPONENT VIDEO端子から入った信号はCOMPONENT VIDEO端子に出力されます。
- 本機をテレビ(モニター)、ビデオ再生機器および録画機器に接続する際には、入出力側とも、ビデオやSビデオ、コンポーネントビデオなどの同じ種類の端子に接続してください。
- S VIDEOおよびCOMPONENT VIDEO端子の接続には、市販の専用ケーブルをお使いください。
- 本機のS VIDEO端子は、映像に合わせてテレビのワイドモードを切り替える、S1およびS2規格には対応していません。
- 市販のコンポーネントビデオ信号対応機器には、端子名が「Y、P_B、P_R」以外に、「Y、C_B、C_R」や「Y、B-Y、R-Y」というものがありますが、詳細は接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- テレビ(モニター)がコンポーネント信号に対応していない場合は、ビデオ機器と本機をコンポーネント信号で接続しても、テレビ(モニター)で映像を楽しめません。あらかじめビデオ機器とテレビ(モニター)の対応信号をご確認の上、ビデオ機器の接続を行ってください。

■ テレビモニターに接続する

お使いのテレビモニターのビデオ入力端子をMONITOR OUT VIDEO 端子に接続して下さい。

■ DVDプレーヤー、衛生放送／CATVチューナーを接続する

お使いのDVDプレーヤーのOPTICAL (光)デジタルオーディオ出力端子を本機のDIGITAL INPUT端子に、また、ビデオ出力端子をVIDEO入力端子に接続してください。
OPTICAL (光)デジタル出力端子のないビデオ機器を使用する際には、AUDIO端子に接続してください。その場合には、ドルビーデジタルやDTS 、AACなどのマルチチャンネル再生はできません。

お使いのDVDプレーヤーにSビデオ出力やコンポーネントビデオ出力端子がある場合は

市販の接続コードを使って本機のS VIDEO入力端子、またはCOMPONENT VIDEO端子に接続します。

■ ゲーム機などを接続する

ゲーム機等は本機前面のVIDEO AUX端子に接続してください。
お使いのゲーム機などのOPTICAL(光) デジタルオーディオ出力端子を本機のOPTICAL端子に(もしくはオーディオ端子をAUDIO端子に)、ビデオ出力端子をVIDEO端子に接続してください。

■ ビデオデッキを接続する

お使いのビデオデッキのオーディオ入力端子を本機のAUDIO OUT端子に、また、ビデオ入力端子をVIDEO OUT端子に接続すると、録画できます。また、オーディオ出力端子を本機のAUDIO IN端子に、ビデオ出力端子をVIDEO IN端子に接続すると、お使いのビデオデッキからソースを再生できます。
2台目のビデオデッキ等はVCR2/DVR端子に接続してください。

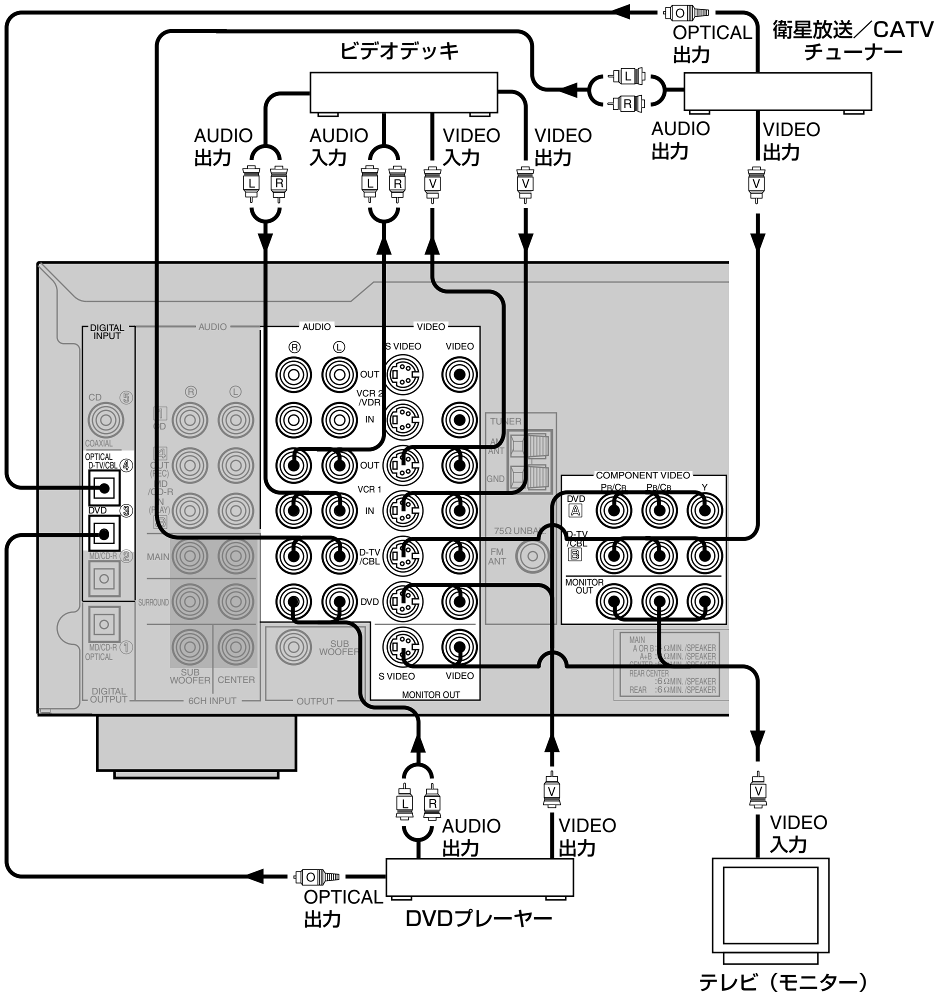
お使いのビデオデッキにSビデオ入出力端子がある場合は

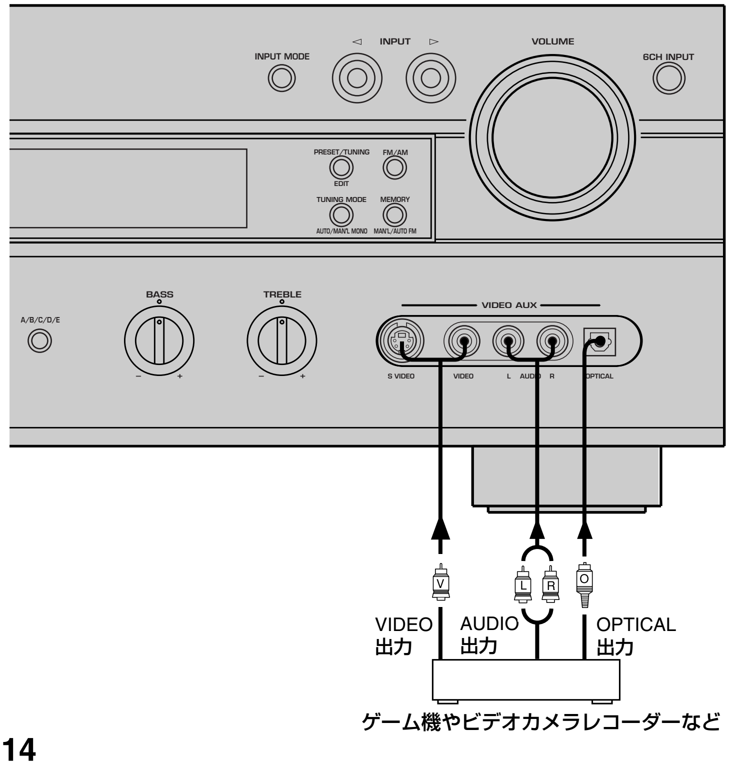
- ビデオデッキのSビデオ入力端子を本機のS VIDEO OUT 端子に接続してください。
- ビデオデッキのSビデオ出力端子を本機のS VIDEO IN端子に接続してください。

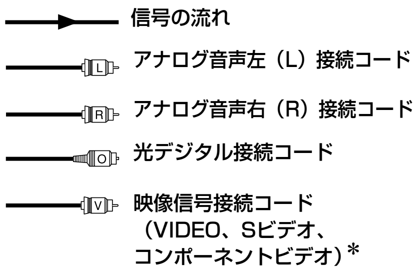
ご注意

- OUT (REC) 端子と接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてお使いください。
- セットメニューの「7 I/O ASSIGN」を変更することで、使用していないデジタル入出力端子およびコンポーネントビデオ端子を別の機器用に変更して、利用することもできます。

準備







＊ VIDEO, S VIDEO, COMPONENT VIDEO端子のうちお使いの機器の端子形状に適したビデオケーブルを1系統のみ接続してご使用ください。

オーディオ機器を接続する

■ CD プレーヤーを接続する

お使いの CD プレーヤーに COAXIAL デジタル出力端子がある場合は、DIGITAL INPUT CD 端子に接続してください。

ヒント

COAXIAL(同軸) デジタル出力端子のない CD プレーヤーを使用する際には、AUDIO端子に接続してください。

■ CD レコーダーやMDレコーダーを接続する

デジタル録音するときは、CD/MD レコーダーのOPTICAL (光)デジタル入力端子をDIGITAL OUTPUT MD/CD-R端子に接続してください。再生する場合は、CD/MDレコーダーのOPTICAL (光)デジタル出力端子をDIGITAL INPUT MD/CD-R端子に接続してください。

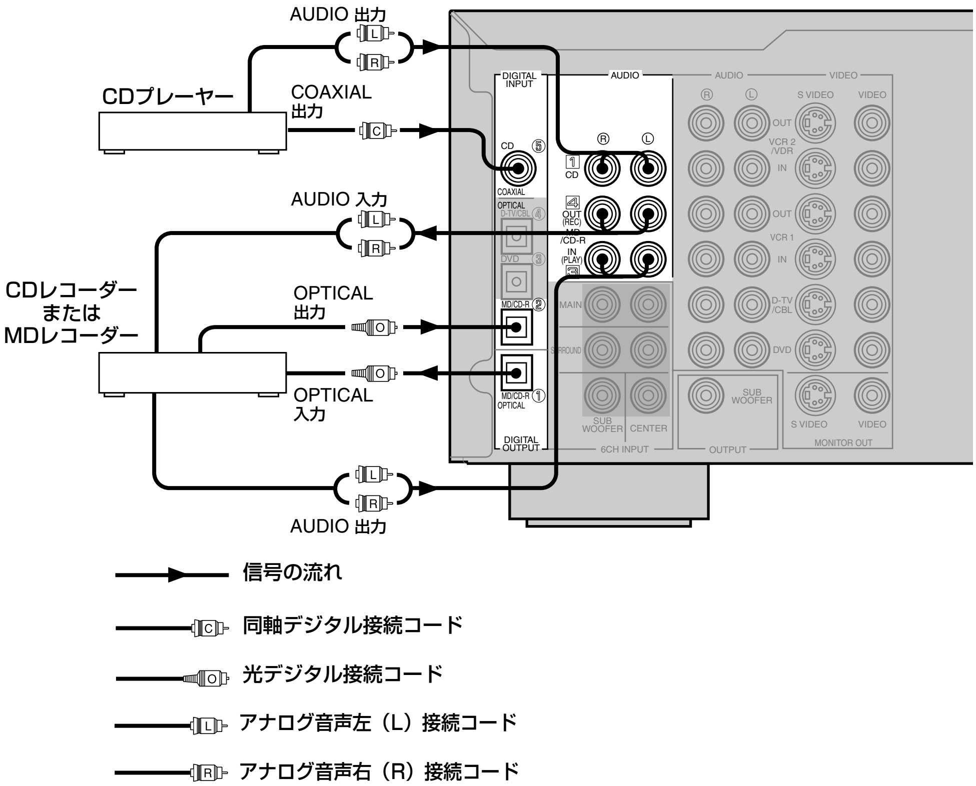
ヒント

- OPTICAL (光) デジタル入出力端子のないCD/MD レコーダーを使用する場合には、AUDIO端子に接続してください。
- CD/MD レコーダーをアナログとデジタルの両方の入力端子に接続すると、デジタル信号が優先されます。

ご注意

- OUT (REC) 端子と接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてお使いください。
- セットメニューの「7 I/O ASSIGN」を変更することで、使用していない端子を別の機器用に変更して、利用することもできます。

準備



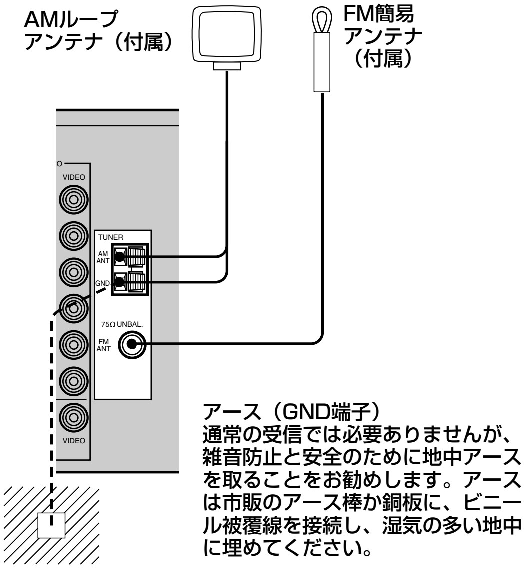
アンテナを接続する

本機にはAMループアンテナ及びFM簡易アンテナが付属しています。 付属のアンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。

各アンテナを端子に正しく接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM ANT端子に接続してください。

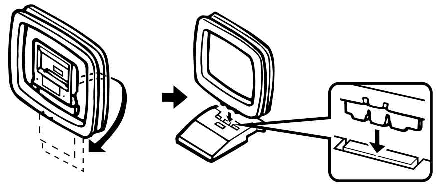


FM屋外アンテナを接続するときは

アンテナの同軸ケーブルを市販のF型コネクターを使って、FM ANT端子に接続します。詳しくは、屋外アンテナをお買い求めの販売店にご相談ください。

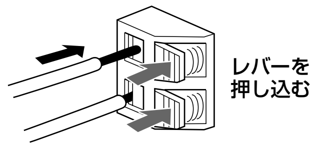
■ AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。



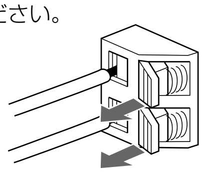
2 AM ANT端子とGND端子のレバーを押し込んだ状態で、AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込む。

コードに極性はありません。

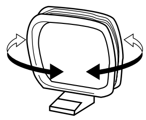


3 レバーを放して、コードを固定する。

コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。



4 アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向ける。



ヒント

- AMループアンテナをスタンドから取り外して、壁などに取り付けることもできます。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをお勧めします。詳しくは、最寄りのヤマハ電気音響製品のサービス拠点にお問い合わせください。

ご注意

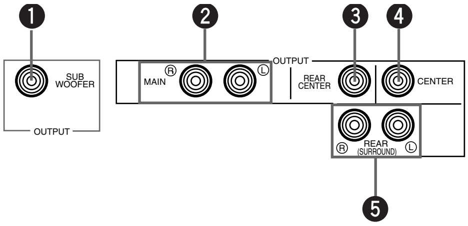
- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続しておいてください。

他のアンプを接続する

より大音量で音声を楽しみたいときや、お手持ちのアンプを利用したいときは、本機のOUTPUT端子と外部パワーアンプを接続します。

ご注意

他のアンプへ出力するためにRCAピンプラグをOUTPUT端子に接続したときは、本機にスピーカーを接続しないでください。外部アンプに接続したスピーカーと、本機に接続したスピーカーの両方から音が出てしまいます。



アンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは

ヤマハ アクティブサーボ スーパーウーファーシステムなどのアンプ内蔵スーパーウーファーを使用するときは、SUBWOOFER端子につなぎます。

メイン、センターおよびリアチャンネルからの90Hz以下の低音域の信号はこの端子に送られます。ドルビーデジタル、DTS、AACデコード時のLFE信号もこの端子に出力されます。

ヒント

SUBWOOFER端子からの出力レベルはセットメニューで設定できます。また、お使いのスーパーウーファーに付属する取扱説明書もご覧の上、スーパーウーファー自体の音量レベルも調節してください。

ご注意

セットメニュー「1 SPEAKER SET」と「2 LFE LEVEL」の設定によっては、SUBWOOFER端子から音声信号が出力されない場合もあります。

外部のパワーアンプを接続して、スピーカーを駆動するときは

接続するパワーアンプに合わせて、本機後面のOUTPUT端子に接続します。

- **MAIN端子**：メインL、Rチャンネルの信号を出力します。
- **CENTER端子**：センターチャンネルの信号を出力します。
- **REAR(SURROUND)端子**：リアL、Rチャンネルの信号を出力します。
- **REAR CENTER端子**：リアセンターチャンネルの信号を出力します。

ヒント

MAIN端子から出力される信号には、VOLUMEコントロール、BASSコントロール、TREBLEコントロールの設定が反映されます。

外部デコーダーを接続する

本機の6CH INPUT端子に、6(5.1)チャンネル出力端子を持ったDVDオーディオプレーヤーやその他の外部デコーダーなどを接続できます。

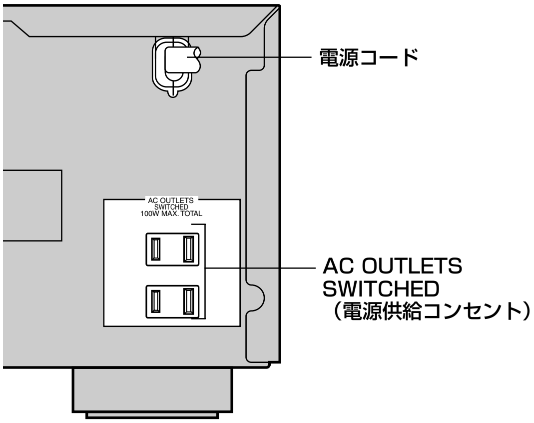
外部デコーダーの出力端子を6CH INPUT端子につなぎます。メイン、サラウンドチャンネルの入出力のL、R端子が正しく接続されているか確認してください。

ご注意

- 6CH INPUT端子から入力した音声には、本機の音場効果は加わりません。
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、セットメニューの「1 SPEAKER SET」の設定は、「1F MAIN Lv」を除いて反映されません。

準備

電源コードを接続する



■ AC OUTLETS SWITCHED（電源供給コンセント）

（エイシー　アウトレット　スイッチド）

本機のAC OUTLETS SWITCHED（電源供給コンセント）に他の機器の電源コードを接続すると、他の機器に電源を供給できます。本機の電源スイッチの入／スタンバイと連動して、合計で最大消費電力100Wまでの機器に、電源を供給できます。

■ 電源コードを接続する

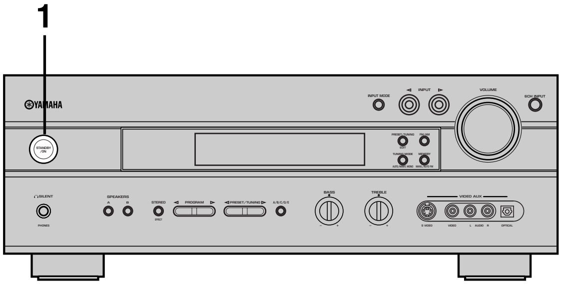
すべての接続が終わったら、家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。

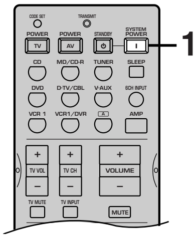
ご注意

- 音量レベルやセットメニューの設定内容、エフェクトスピーカーのレベルなどの設定は、本機の内蔵メモリーに記憶されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています（メモリーバックアップ）。ただし1週間を過ぎると、記憶内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。
- 電源供給コンセントに他の機器を接続する場合や、本機の電源コードをACコンセントに接続する場合には、電源プラグの向き（極性）によって音が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

電源を入れる

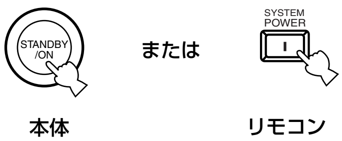
ここまでのすべての準備が終わったら、本機の電源を入れます。





1 STANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSYSTEM POWER キーを押す。

本機の電源が入ります。



2 DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ（モニター）の電源を入れる。

スピーカーモードの設定

本機は6.1チャンネル対応のメインアンプを備えています。スーパーウーファーを含め最大7本のスピーカーを使用することができますが、お使いのスピーカーの数や大きさに合わせた最良の音場効果を得るためにスピーカーモードを設定することができます。

下記の表に記載されている初期設定値がお使いのスピーカーに合わない場合は、44〜45ページの「1 SPEAKER SET」にて設定を変更してください。

SPEAKER SETの設定内容

項目	設定内容	可変範囲 （太字は初期設定）
1A CENTER（センター）	センタースピーカーの性能、サイズや有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NON
1B MAIN（メイン）	メインスピーカーの性能、サイズに応じて、出力モードを選択します。	**LARGE**/SMALL
1C REAR LR（リア エルアール）	リアスピーカーL、Rの性能、サイズや有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NON
1D REAR CT（リア センター）	リアセンタースピーカーの性能、サイズ、有無に応じて、出力モードを選択します。	**LRG**/SML/NON
1E BASS（バス）	LFE/BASS（低音）信号を出力するスピーカーを選択します。	SWFR/MAIN/**BOTH**
1F MAIN Lv（メイン レベル）	メインスピーカーレベルを選択します。	**Nrm**(ノーマル)/－10dB

準備

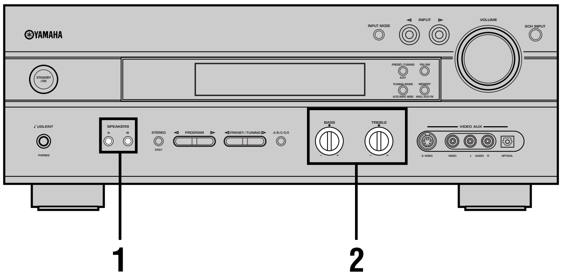
スピーカーの音声出力レベルを調節する

テストトーンを出力して、リスニングポジションで聞こえる各スピーカーからの音の大きさが同じになるように調節します。この調節はデジタル音場処理、ドルビープロロジック、ドルビープロロジックII、ドルビーデジタルやDTS、AACを最良の環境で使用するために重要です。

ご注意

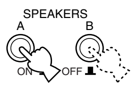
ヘッドホンをつないでいると、音声出力レベルを調整できません。音声出力レベルを調節する前に、ヘッドホンを取りはずしてください。

調節の前に行うこと

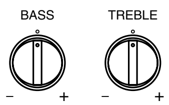


1 **SPEAKERS AもしくはBスイッチを押して使用するメインスピーカーを選択する。**

2組のメインスピーカーを使用するときはAとBの両方を押します。



2 **本体のトーンコントロール（BASS、TREBLE）を中央にセットする。**

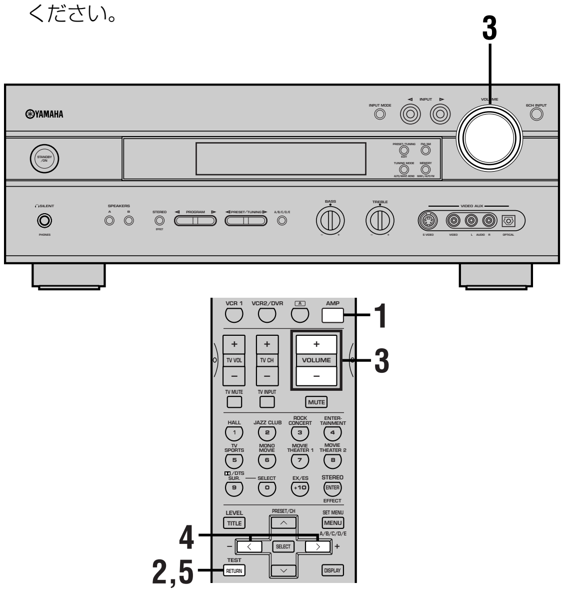


テストトーンで調節する

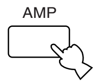
付属のリモコンを使って、サラウンドサウンドシステムに必要な6つのスピーカーとスーパーウーファーの出力レベルを調節します。

ご注意

調節は必ず音声を聴く位置（リスニングポジション）で行ってください。



1 **AMPキーを押す。**



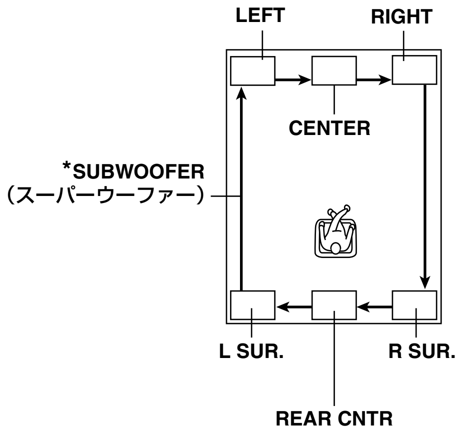
2 **TESTキーを押す。**



3 **テストトーンが聴こえるように、本機の音量を調節する。**

テストトーンは、LEFT（メインLスピーカー）→CENTER（センタースピーカー）→RIGHT（メインRスピーカー）→R SUR.（リアRスピーカー）→REAR CNTR（リアセンタースピーカー）→L SUR.（リアLスピーカー）→SUBWOOFER（スーパーウーファー）…の順で巡回し、それぞれ約2秒間ずつ聴こえます。

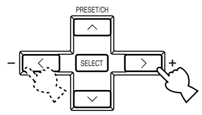




* スーパーウーファーのテストトーンはリアＬスピーカー(L SUR.)のテストトーンの次に出力されます。

ディスプレイにテストトーンを出力しているスピーカーが表示されます。

4 **調整したいスピーカーからテストトーンが出ている間にくキーまたは >キーを押して、メインスピーカーの音量と同じになるように調節する。**



調節中は、テストトーンは調節中のスピーカーからのみ出力されます。

ご注意

テストトーンモードではメインスピーカーの音量レベルの調節はできませんので、VOLUME 調節つまみやリモコンの＋や－キーでメインスピーカーの音量レベルを調節してください。

5 **調節が終わったら、TESTキーを押す。**

テストトーンが止まります。



ご注意

- テストトーンが聴こえないときは、いったん音量を下げ、本機の電源を切ってからスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- セットメニュー「1A CENTER」がNONに設定されている場合は、センタースピーカーの信号は左右のメインスピーカーに同じレベルで振り分けられ、メインL、Rスピーカーから出力されます。この場合、センタースピーカーの音声出力レベルを調節することはできません。
- セットメニューの「1C REAR LR」がNONに設定されている場合は、リアL、Rおよびリアセンタースピーカーの出力レベルは手順４では調節できません。テストトーンはリアＬ、Ｒおよびリアセンタースピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「1D　REAR CT」がNONに設定されているときは、リアセンタースピーカーの出力レベルは手順4では調節できません。テストトーンはリアセンタースピーカーをとばして巡回します。
- セットメニューの「1E BASS」が MAIN に設定されている場合は、テストトーンはスーパーウーファーをとばして巡回します。

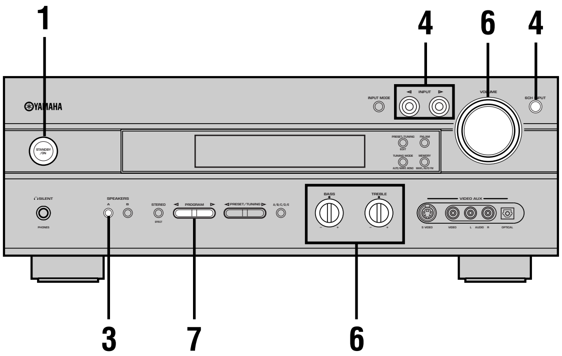
ヒント

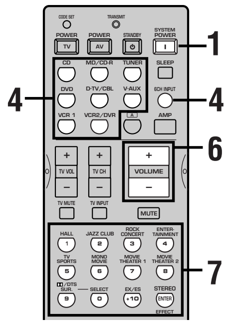
- 再生するソースによっては、テストトーンで調節したスピーカーレベルがお好みに合わないことがあります。この場合は、実際の再生音を聴きながら調節してください。詳しくは、「エフェクトスピーカーの音量を調節する」(52ページ)をご覧ください。
- エフェクトスピーカー(センター、リアL、リアR、リアセンター)の音量レベルを＋10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニュー「1F MAIN Lv」を－10dBに設定して、メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げてください。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアセンタースピーカーおよびリアL、Rスピーカーのレベル調節をもう一度おこなってください。

準備

音声／映像を再生する

本機に接続したオーディオ機器やビデオ機器のソフトを再生します。





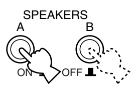
1 **本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSYSTEM POWERキーを押して、本機の電源を入れる。**



2 **DVDなどの映像ソースを再生する場合は、本機と接続したテレビ（モニター）の電源を入れる。**

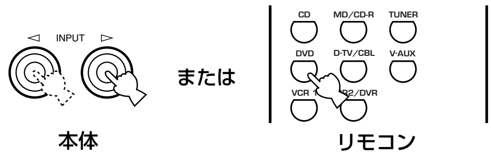
3 **本体のSPEAKERS AまたはBスイッチを押して、音を出すメインスピーカーを選ぶ。**

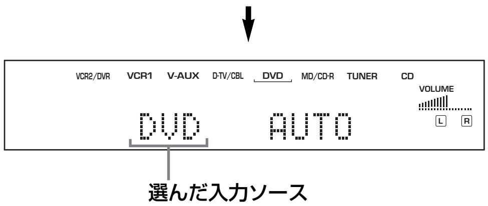
2組のメインスピーカーを使用する時はAとBの両方を押します。



4 **本体のINPUT ◁ / ▷ キー、またはリモコンの入力選択キーを押して、再生したい音声を選ぶ。**

選んだ音声（入力ソース）の種類が、ディスプレイに数秒間表示されます。





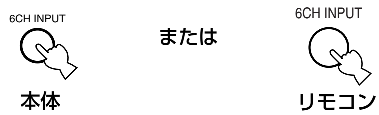
ご注意

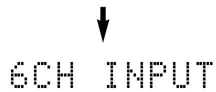
入力ソースは、本機に接続している機器名ではなく、その機器をつないでいる本機の端子名に対応しています。

例：ビデオデッキではなく、DVDプレーヤーを本機のVCR 1 IN端子に接続すると、ディスプレイにはVCR 1と表示されますが、実際にはビデオデッキではなく、DVDプレーヤーの音が出ます。

6CH INPUT端子に接続したオーディオソースを選択する

映像と共に6CH INPUT端子に接続された音声を楽しみたい場合には、最初にビデオソースを選択して、次に6CH INPUTキーを押してください。





ご注意

“6CH INPUT”がディスプレイに表示されている場合は、ほかのソースを再生することはできません。別の入力ソースを選択するには、6CH INPUTキーを押してディスプレイから“6CH INPUT”の表示を消してください。

5 機器の再生（または放送の受信）を始める。

再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

6 音量を調節する。

音量レベルはデジタル表示されます。

例：－70dB

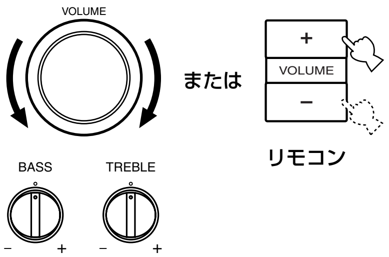
コントロール範囲：VOLUME MUTE (最小) ～ 0dB (最大)

なお、音量レベルは VOLUME 表示のバーグラフでも確認できます。

必要に応じてBASS、TREBLEも調節してください。これらの調節はメインスピーカーから出力される音のみに有効です。

●BASSコントロールは低音を調整します。

●TREBLEコントロールは高音を調整します。



リモコン

本体

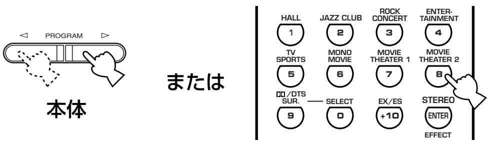
ご注意

- 高・低音域の音声を最大もしくは最小限まで増減すると、センター、リアL、R、リアセンタースピーカーから出力する音質はメインL、Rスピーカーからの音質と調和がとれなくなることがあります。
- OUT (REC) 端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。このような場合は、接続している機器の電源を入れてください。

7 音場プログラムを選ぶ。

音場プログラムキーで好みの音場プログラムを選択します。

リモコンで操作するには、DSPプログラムを選ぶ前にAMPキーを押してください。



本体

リモコン

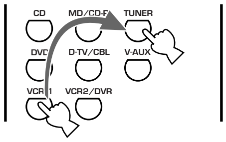
ご注意

入力ソースを切り替えると、あらかじめ設定された音場プログラムに切り替わります。

■ BGV(バックグラウンドビデオ)機能

BGV機能とは、ビデオ系ソースの映像と、オーディオ系ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です(例えばビデオを観ながらクラシック音楽を楽しむことができます）。

ビデオ系ソースを選択した後、リモコンの入力選択キーで、オーディオ系ソースを選択します。



■ 一時的に音声を消す（消音する）

リモコンのMUTEキーを押します。



前の音量に戻すには、もう1度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME ＋/－キーや音場プログラムキーなどを押しても消音は解除できます。
- 消音中(ミュート中)は、本体ディスプレイのMUTE表示が点滅します。
- 本機をスタンバイ状態にすると、消音が解除されます。

■ 本機の使用を終了するときは

本体のSTANDBY/ONスイッチ、またはリモコンのSTANDBYキーを押して、本機をスタンバイ状態にしてください。



本体

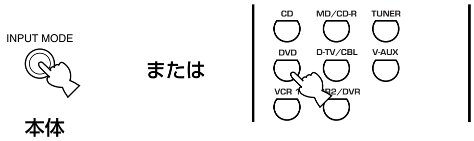
リモコン

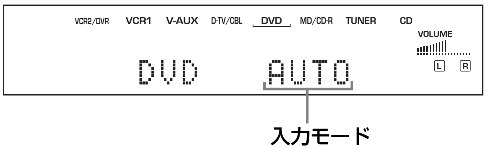
基本操作

入力モードを切り替える

入力信号のアナログ／デジタルの優先順位を選んだり、AACなどの特定の系統に固定したりすることができます。

希望する入力モードが本体ディスプレイに表示されるまで、INPUT MODEキー（または選択しているリモコンの入力選択キー）を繰り返し押してください。





- AUTO：次の順序で入力信号が選ばれます。
  1) デジタル信号
  2) アナログ信号
- DTS：DTS信号以外は再生されません。
- AAC：AAC信号以外は再生されません。
- ANALOG：アナログ入力に固定されます。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されているときに、ドルビーデジタルまたはDTS、AAC信号が入力されると、自動的に最適なデコーダーが選択されます。
- セットメニューの「8 INPUT MODE」で、本機の電源を入れたときに、前回指定した入力モードをそのまま使うか、AUTOに戻すかを指定することもできます。

ご注意

入力モードがAUTOに設定されているときに、次のような症状が起こることがありますが、故障ではありません。

- ドルビーデジタルまたはDTSディスクを再生中にサーチ（検索）してから再生をはじめると、一部のLDおよびDVDプレーヤーで、再生音が少し遅れて再生される。
- デジタル録音されていないLDを再生する場合に、一部のLDプレーヤーで音声が正常に再生できない。この場合は入力モードをANALOGに設定して、お使いください。

■ 48kHzを超えるデジタル信号についてのご注意

本機のデジタル入力端子には、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号を入力することができます。詳しくは、デジタル入力端子に接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

48kHzを超えるデジタル信号を入力する場合は、下記の点にご注意ください。

– 音場プログラムが選択できなくなります。音声はメインスピーカーからのみ通常の2チャンネルステレオサウンドとして出力されます。そのため、 ソースをお聴きの間は、エフェクトスピーカーのレベルは調節できません。
– セットメニューの「1 SPEAKER SET」の設定によっては、スーパーウーファーからも音が出る場合があります。
– 同じ入力系統のCOAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号が優先されます。
– スーパーウーファー以外のスピーカーの音声出力レベル調節ができなくなります。

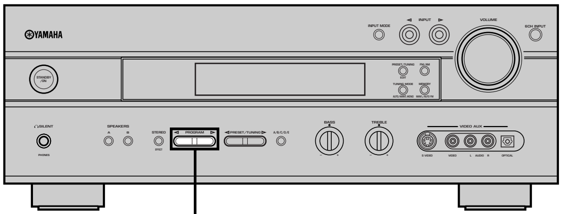
■ DTS-CD/LDのDTS音声の再生に関するご注意

- プレーヤーから出力されるデジタル信号に音量レベル可変処理などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても、DTS音声は再生できません。
- DTS音声を再生するには、音声を再生する機器をデジタル入力端子に接続して、入力モードをAUTOまたはDTSに設定してください。入力モードをANALOGに設定して再生した場合、雑音が発生することがあります。
- DTS音声を再生中に入力モードをANALOGに切り替えると、音声は出力されません。
- 入力モードをAUTOに設定してDTS音声を再生する場合は：
  – 本機はDTS信号を検知すると、自動的にDTSモード（dts表示が点灯）に切り替わります。DTS音声の再生が終了したときに、dts表示が点滅することがありますが、点滅中はDTS音声しか再生できません。DTS音声の再生が終了後すぐに、通常のPCM音声を再生したいときは、入力モードをAUTOに設定しなおしてください。
  – プレーヤー側でサーチまたはスキップ操作をしてDTS信号がとぎれると、dts表示が点滅することがあります。この状態が30秒以上続くと、自動的にDTSモードから通常のデジタル（PCM）入力に切り替わり、dts表示は消灯します。

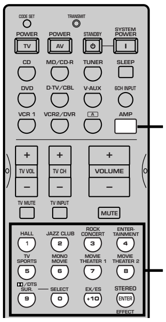
音場プログラムを選ぶ

本機には、世界各地の著名な演奏会場での実測データを元に作成されたHi-Fi DSP音場プログラムに加え、より幅広い表現力を持つCINEMA-DSP音場プログラムを内蔵しています。

再生するときにお好みの音場を呼び出して、その臨場感と効果をお楽しみください。各音場プログラムについて詳しくは、29～36ページをご覧ください。



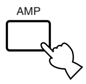
PROGRAM ◁ / ▷



1

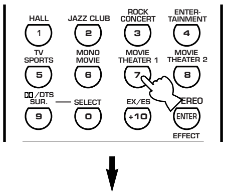
2,3

1 リモコンのAMPキーを押す。



2 リモコンの音場プログラムキーを押してお好みの音場プログラムを選ぶ。

プログラム名は、ディスプレイに表示されます。



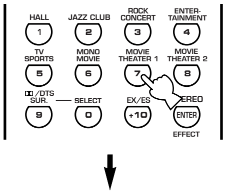
音場プログラム名



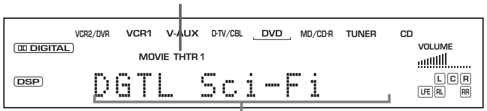
音場サブプログラム名

3 音場プログラムキーを繰り返し押して、お好みの音場サブプログラムを選ぶ。

例：「MOVIE THEATER 1 」を繰り返し押すと、音場サブプログラム「 Sci-Fi 」と「 Spectacle 」が交互に表示されます。



音場プログラム名



音場サブプログラム名

ご注意

- 本機では、お好みにより、全部で9つの音場プログラムを選択できます。ただし、一部の音場プログラムでは入力信号の種類に適したデコーダーと音場サブプログラムが自動的に選択されます。詳しくは、「入力信号形式のちがいによる音場サブプログラム名一覧」（31 ページ）をご覧ください。
- 6CH INPUT 端子に接続しているソースを再生しているときと、サンプリング周波数 48kHz をこえるデジタル信号が本機に入力されているときは、デジタル音場プログラムは使用できません。
- リスニングルームの音響効果は、音場プログラムに影響を与えます。プログラムによって作り出される効果を最大限に引き出すために、リスニングルーム内に反響しやすい物体をできるだけ置かないようにしてください。
- 入力モードがAUTOに設定されている場合にはドルビーデジタル、DTSまたはAAC信号が入力されると、選択している音場プログラムによっては、入力ソースに対応した音場サブプログラムに自動的に切り替わる場合があります。詳しくは、「入力信号形式のちがいによる音場サブプログラム名一覧」（31 ページ）をご覧ください。
- 本機をスタンバイ状態にしたときの入力ソースと音場プログラムは記憶されています。電源を入れると、自動的に前回の状態に戻ります。
- モノラルソースをPRO LOGIC/NORMAL、PRO LOGIC / ENHANCEDやPRO LOGIC II Movie音場で再生中は、センタースピーカーからのみ音が出ます。メインスピーカーやリアスピーカーからは音は出ません。ただし、セットメニューの「1A CENTER 」がNONに設定されているときは、センターチャンネルの音声はメインスピーカーから音が出ます。

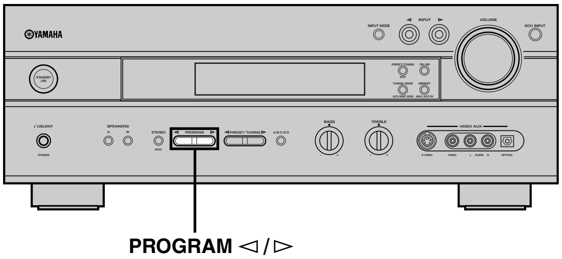
ヒント

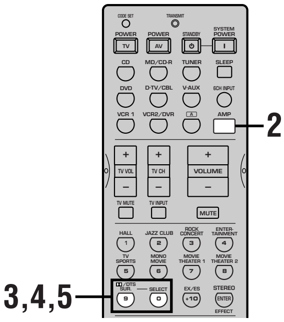
- 本体のPROGRAMキーでも音場プログラムを選択できます。
- 音場プログラムはプログラム名ではなく、ご使用になるリスニングルームの状況やお好みに合わせてお選びください。

基本操作

PRO LOGIC IIを選ぶ

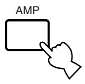
音場プログラム No. 9 で PRO LOGIC II を選択すると、2 チャンネルソースを仮想的に多チャンネル化してお楽しみいただけます。





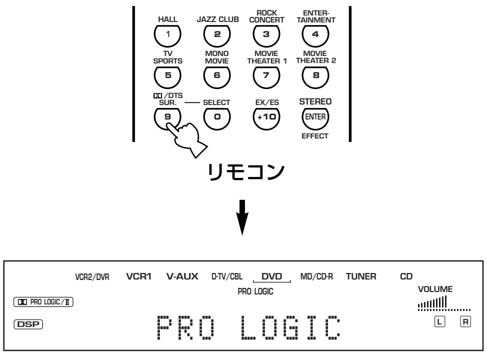
1 2 チャンネルソースを選択してから、そのソースを再生する。

2 リモコンのAMPキーを押す。

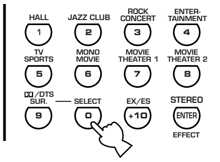


3 「DD/ DTS SUR.」キー を押す。

前回再生した音場サブプログラムが本体ディスプレイに表示されます。

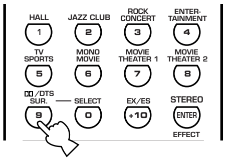


4 SELECT キーを繰り返し押して、PRO LOGIC II を選ぶ。



5 「DD/ DTS SUR.」キーを押して、ソースに合った音場サブプログラムを選ぶ。

手順4でPRO LOGIC IIデコーダーを選んだときは、PRO LOGIC II Movie ↔ PRO LOGIC II Musicと交互に切り替わります。



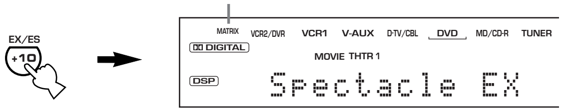
ヒント

- 本体の PROGRAM キーでも、PRO LOGIC II Movie や PRO LOGIC II Music を選択できます。
- 2チャンネル音声以外の信号は、DOLBY PRO LOGIC II デコーダーでは再生できません。

■ ドルビーデジタルEXやDTS ESのソースを再生する

EX/ES キーを押して、ドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーを作動させて再生します。

MATRIX インジケーターが点灯します。



EX/ESキーを押すごとに、AUTO（自動判別）→Matrix6.1（マトリクス音声）→OFF→AUTO→…の順にディスプレイ表示が切り替わります。

AUTO:　信号によって、ドルビーデジタル EX 音声と DTS-ES 対応音声に自動的に切り替わります。5.1 チャンネルソースを入力した場合はリアセンタースピーカーから音は出ません。

Matrix6.1:　ドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーを作動させて 6 チャンネル再生します。5.1 チャンネルソースを入力した場合もリアセンタースピーカーから音が出ます。

OFF:　ドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーは作動しません。
リアセンタースピーカーから音は出ません。

ご注意

- セットメニューの「1C REAR LR」または「1D REAR CT」を NON に設定すると、リアセンタースピーカーから音は出ません。
- ドルビーデジタルサラウンド EXもしくはDTS ESディスクには、本機が自動的に認識できる信号（フラグ）が含まれていない場合があります。このようなディスクを6.1チャンネルで再生するには、Matrix6.1を選択してください。
- 下記の場合には、EX/ESキーを押してもドルビーデジタルEXもしくはDTS-ESコンパチブルデコーダーは作動しません。
  - 「1C REAR LR」をNONに設定している。
  - 音場効果が「切」（ステレオ再生）になっている。
  - ヘッドホンを接続している。
  - 6CH INPUT端子に入力されている音声を再生している。
  - ドルビーデジタルKARAOKE方式のソースを再生している。
  - 音場プログラムで6ch Stereoを選んでいる。
- 本機をスタンバイ状態にしてからもう1度電源を入れると、上記設定はAUTOに戻ります。

■ メインスピーカーだけで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

セットメニューの「1C REAR LR」をNONに設定すると、バーチャルシネマDSP音場を楽しめます。

入力ソースの音声はバーチャルシネマDSPで音場処理され、選んだ音場プログラムでメインスピーカー（L、R）から音声が再生されます。

ご注意

下記の場合は、セットメニュー「1C REAR LR」がNONに設定されていても、バーチャルシネマDSPにはなりません。

- 6ch StereoやPro Logic Normal、DOLBY DIGITAL Normal、DTS Normal、AAC Normal、Pro Logic II音場プログラムを選んでいる。
- 音場効果が「切」（STEREO）になっている。
- 本機の6CH INPUT端子に接続されたソースを再生している。
- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されている。
- テストトーンを使用している。
- ヘッドホンを接続している。

■ ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシアター）

ステレオ音声再生状態でないときにヘッドホンを本体のPHONES端子に接続すると、ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現できる、サイレントシアターで音声を楽しめます。「SILENT」表示が本体ディスプレイに点灯します。(音場効果がオフの状態では通常のステレオ再生になります。)

ご注意

- サンプリング周波数48kHzを超えるデジタル音声が入力されているときは、サイレントシアターは作動しません。
- 6CH INPUT端子に入力された信号を再生しているときは、メインL、Rチャンネルの音声のみヘッドホンに出力されます。
- LFEチャンネル音声は他のチャンネルとミックスされて、ヘッドホンから出力されます。

■ 通常のステレオ音声で再生するには

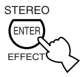
STEREO/EFFECTキーを押して、「STEREO」を表示させる。

音場効果が「切(オフ)」になり、通常のステレオ再生に戻ります。STEREO/EFFECTキーをもう1度押すと、音場効果が「入(オン)」になります。

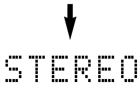


本体

または



リモコン



ご注意

- 音場効果をオフにすると、センター、リアL/R、リアセンタースピーカーから音は出ません。
- ドルビーデジタルやAAC、DTSの音声を再生中に音場効果を「切」にすると、ダイナミックレンジが圧縮され、センターおよびリアチャンネルの信号はメインスピーカーのL、Rにミックスされて出力されます。
- 音場効果をオフにしたり、セットメニューの「4 D.RANGE」をMINに設定すると、音量が極端に下がることがあります。このような場合は音場効果をオンにしてください。
- LFE チャンネル音声は、セットメニューの「1E BASS」設定により、メイン L、R スピーカーかスーパーウーファー、または、両スピーカーから出力されます。

■ 入力信号情報を表示する

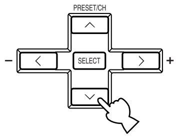
ステレオ再生中、入力信号のタイプ、フォーマットやサンプリング周波数などの情報をディスプレイに表示できます。

(ソース再生中)

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 ∨ キーを押す。

入力信号の情報が表示されます。



ヒント

- (Format)：入力信号の信号フォーマット。デジタル入力を認識できない場合は、アナログモードに設定されます。

入力信号	表示
アナログ音声	Analog
PCM音声	PCM
ドルビーデジタル音声	Dolby Digital
DTS音声	DTS
AAC音声	AAC
不明なデジタル信号	Unknwn Digital (Unknown Digital)

- fs：入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)。サンプリング周波数が不明の場合は、unknownと表示されます。
- (Audio Channels)：入力信号の音声チャンネル数（ドルビーデジタル／DTS／AAC入力時のみ）。

  例えば、「in:3/2/LFE」と表示された場合は、「フロント3チャンネル／リア2チャンネル／ LFE」を示しています。

  また、二カ国語放送などの主＋副の 2チャンネル音声は「1+1」、3音声以上の音声多重形式の音声は「MLT」と表示されます。
- rate(bit rate)：入力信号の1秒あたりのデータ量[ビットレート](ドルビーデジタル／DTSのみ)。ビットレートが不明の場合は、「unknown」と表示されます。
- flg(flag)：入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号[フラグ](ドルビーデジタル／DTSのみ)。フラグが認識できなかった場合は、「None」と表示されます。

音場プログラム一覧

音場とは・・・



「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。
建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを本機に搭載したROM（専用メモリー）に蓄積しています。
本機では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をリスニングルームに再現することができます。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられることがありますが、故障ではありません。
- 下記の名称や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

Hi-Fi DSPプログラム

プログラム No. 1～4（Disco、 6ch Stereo）は音楽向けのHi-Fi DSP プログラムです。
下表は各音場プログラムによって再現される音場の特長を記載しています。

No.	プログラム	特長
1	CONCERT HALL（コンサート ホール）	円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がり、サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。
2	JAZZ CLUB（ジャズ クラブ）	ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、リアルでライブな音場です。
3	ROCK CONCERT（ロック コンサート）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。左後方に強い反射音がありますので、左後方が大きめに聞こえます。
4	ENTERTAINMENT/（エンターテイメント）Disco（ディスコ）	ディスコミュージックに包まれる、乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
	ENTERTAINMENT/（エンターテイメント）6ch Stereo（チャンネル ステレオ）	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特徴のホームパーティーを演出する音場プログラムです。

CINEMA-DSP プログラム

プログラム No. 4（Game、Concert Video）～ No. 6 はビデオ向けの CINEMA-DSP プログラムです。また、プログラム No. 7 ～ 9 は映画向けの CINEMA-DSP プログラムです。

下表は各音場プログラムによって再現される音場の特長を記載しています。
下記のプログラム名や特長にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

No.	プログラム	特長
4	ENTERTAINMENT/ Game（エンターテイメント/ゲーム）	モノラル、ステレオを問わず、ゲームサウンドにより一層の奥行きとサラウンド感を与え、迫力と臨場感のあるゲームが楽しめます。
	ENTERTAINMENT/ Concert Video（エンターテイメント/コンサート ビデオ）	ロック、ジャズ等のライブコンサート会場のイメージです。サラウンド音場に広いホールのデータを使用しているため、間接音成分が豊かに回り込み、スクリーン周囲への映像空間、音場空間がいっぱいに拡がり、熱狂的な雰囲気にひたれます。
5	TV SPORTS（テレビ スポーツ）	プレゼンス音場は狭めてありますが、サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用しており、様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現しています。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。
6	MONO MOVIE（モノ ムービー）	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
7	MOVIE THEATER 1/ SPECTACLE（ムービー シアター/スペクタクル）	70mm映画の大画面シアターそのものの超ワイドな空間に映画の空気がそのまま存在するようなスペクタクルな音場です。微妙な音の響きまでも再現する表現力をもち、映像と空間に今までにないリアリティを生みだします。70mm映画初期の作品から最新のドルビーデジタル、DTSやAACソースまで、幅広くスペクタクルな世界が楽しめます。
	MOVIE THEATER 1/ SCI-FI（ムービー シアター/サイエンスフィクション）	最新のSFX映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーデジタル、DTSやAACソースまで、サイエンスフィクションの世界を仮想空間音場で楽しめます。
8	MOVIE THEATER 2/ ADVENTURE（ムービー シアター/アドベンチャー）	最新の映画サウンドデザインを最高に再現するプログラムです。70mm／ドルビーデジタルおよびDTS、AACソースのマルチトラックにデザインされた演出を忠実に再現すると共に音場プログラム自体の響きをできるだけ抑えた、最新の映画館とコンセプトを同じにしています。プレゼンス音場に、オペラハウス音場データを使用。会話の定位、立体感に優れています。サラウンド音場にはコンサートホールのデータを使用、力強い響きと共にアクション、アドベンチャーなどのデザインされたサウンドを明確に再現し、痛快な臨場感をもたらします。
	MOVIE THEATER 2/ GENERAL（ムービー シアター/ジェネラル）	70mm/ドルビーデジタルやDTS、AACソースのマルチトラックのサウンドを再現するプログラムで、全体に柔らかい拡がり感のある響きが特長です。プレゼンス音場はやや狭い印象で、セリフの響きを抑え明瞭度を損なわずにスクリーン周囲とスクリーンの奥に立体的に再現されます。サラウンド音場は後方の広い空間に音楽やコーラス等のハーモニーが美しく響く印象です。
9	DD/DTS/AAC SURROUND/ NORMAL（ドルビー サラウンド/ノーマル）	AAC、DTS 、ドルビーデジタル またはドルビープロロジックで処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。スムーズで正確な音源の移動感や定位が得られます。
	DD/DTS/AAC SURROUND/ ENHANCED（ドルビー サラウンド/エンハンスト）	ドルビーサラウンド、DTS サラウンドまたは AAC サラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作と DSP 処理を行います。映画館さながらの豊かなサラウンド音場が、リスナーを包み込みます。

■ 入力信号形式のちがいによる音場サブプログラム名一覧

プログラム No. 7 〜 9 では入力信号の種類によって、デコーダーと音場サブプログラム名が自動的に選ばれます。

No.	入力信号／プログラム	2 チャンネル	5.1 チャンネル			6.1 チャンネル *		
		アナログ、PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC	ドルビーデジタル	DTS	AAC	ドルビーデジタルEX	DTS-ES コンパチブル	AAC ドルビーEX
7	**MOVIE THEATER 1**	70 mm Spectacle	DGTL Spectacle	DTS Spectacle	AAC Spectacle	Spectacle EX	Spectacle ES	Spectacle EX
		70 mm Sci-Fi	DGTL Sci-Fi	DTS Sci-Fi	AAC Sci-Fi	Sci-Fi EX	Sci-Fi ES	Sci-Fi EX
8	**MOVIE THEATER 2**	70 mm Adventure	DGTL Adventure	DTS Adventure	AAC Adventure	Adventure EX	Adventure ES	Adventure EX
		70 mm General	DGTL General	DTS General	AAC General	General EX	General ES	General EX
9	**DOLBY DIGITAL**	—	Normal	—	—	Dolby D EX	—	—
		—	Enhanced	—	—	Enhanced EX	—	—
	DTS DIGITAL SUR	—	—	Normal	—	—	DTS ES	—
		—	—	Enhanced	—	—	Enhanced ES	—
	AAC DIGITAL SUR	—	—	—	Normal	—	—	Dolby EX
		—	—	—	Enhanced	—	—	Enhanced EX
	PRO LOGIC	Normal	—	—	—	—	—	—
		Enhanced	—	—	—	—	—	—
	PRO LOGIC II	Movie	—	—	—	—	—	—
		Music	—	—	—	—	—	—

* ドルビーデジタル EX デコーダーもしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーが作動していることを示しています。

ヒント

- 入力モードがAUTOに設定されている場合は(24ページ)、ドルビーデジタル信号またはDTS、AAC信号が入力されると、音場プログラムは自動的にドルビーデジタルまたはDTS、AAC再生用音場に切り替わります。
- EX/ES キーを押して、ドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーの選択を AUTO に設定した場合は、ドルビーデジタルサラウンド EX や DTS ES ソフトが再生されると、ドルビーデジタル EX または DTS-ES コンパチブルデコーダーが作動し、デコーダーに対応した音場プログラムが選択されます。
- ドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーが作動している場合は、ドルビーデジタルや DTS、AAC 5.1 チャンネル音声をリアセンタースピーカーから再生できます。この場合、音場サブプログラム名は 6.1 チャンネルに対応するプログラムに変わります。
- 6.1 チャンネルソース再生中にドルビーデジタル EX もしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーを OFF にすると、プログラム名は 5.1 チャンネルに対応するプログラムに変わります。

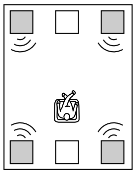
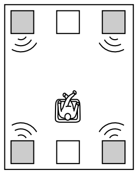
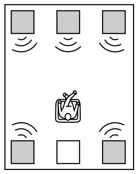
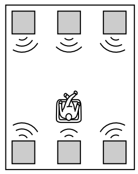
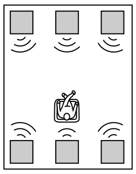
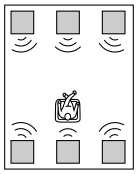
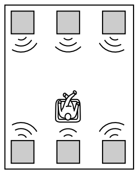
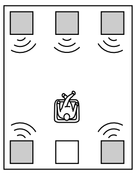
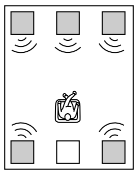
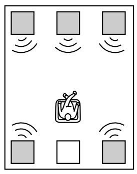
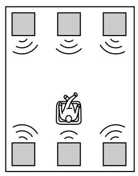
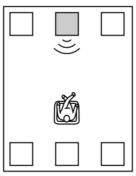
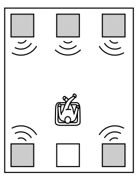
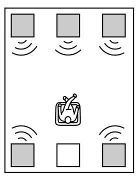
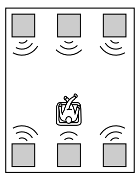
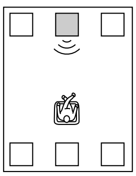
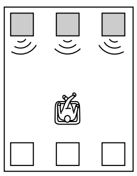
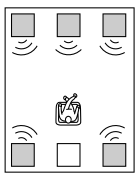
ご注意

- プログラムNo. 9(Enhancedモードを除く)を選択した場合は、DSP 表示は点灯しません。
- モノラルソースをCINEMA-DSPプログラムNo. 4(Game、Concert Video)および5〜9で再生した場合、ソースの音声はセンタースピーカーから出ます。メインスピーカーとリアスピーカーからは、シネマDSPの効果音(反射音)のみ出力されます。

入力信号と再生スピーカー対応表

音場プログラムと入力音声信号、再生スピーカーの関係について詳しくは、下記の表をご覧ください。
本機に入力する音声信号と、選んだ音場プログラムの組み合わせによっては、特定のスピーカーから音が出ないことがあります。

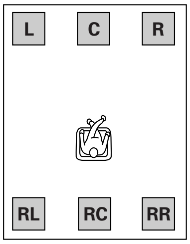
入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

入力信号 / 音場プログラム名	2チャンネル（モノラル）	2チャンネル（ステレオ）	5.1チャンネル	6.1チャンネル*
① CONCERT HALL ② JAZZ CLUB ③ ROCK CONCERT ④ ENTERTAINMENT /Disco				
④ ENTERTAINMENT /6ch Stereo				—
④ ENTERTAINMENT /Game ④ ENTERTAINMENT /Concert Video ⑤ TV SPORTS ⑥ MONO MOVIE ⑦ MOVIE THEATER 1 ⑧ MOVIE THEATER 2				
⑨ DD/DTS/AAC SURROUND/Normal ⑨ DD/DTS/AAC SURROUND /Enhanced				
⑨ PRO LOGIC II	 Movie  Music	 Movie/Music	—	—

* ドルビーデジタル EX デコーダーもしくは DTS-ES コンパチブルデコーダーが作動していることを示しています。

表の見かた

表中のイラストは、6つのスピーカーを示します。



- L: メインLスピーカー
- C: センタースピーカー
- R: メインRスピーカー
- RL: リアLスピーカー
- RR: リアRスピーカー
- RC: リアセンタースピーカー

イラスト中の各スピーカーのイラストは、音が出ているかいないかを示します。

 音が出ているスピーカー

 音が出ていないスピーカー

ご注意

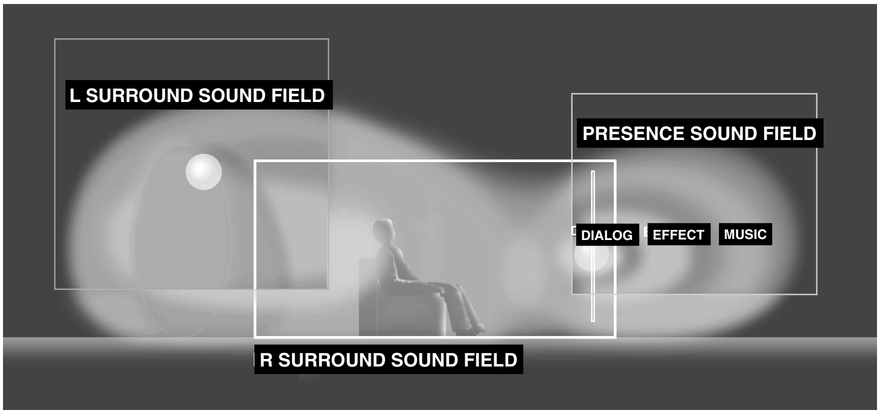
- スピーカーモード(19ページ)でNONに設定されているスピーカーは、接続されていても音は出ません。
- 再生するソースに含まれている信号成分によっては、スピーカーから音が出なかったり、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音など、シーンに合せて部分的にしか使用されないチャンネルもあります。

CINEMA-DSP音場プログラムのサウンドデザイン

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA-DSP」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、AACの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA-DSP音場プログラムでは、L.C.Rチャンネルにもヤマハ DSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

ドルビーデジタル信号、DTS、AAC信号が入力されると、自動的にドルビーデジタル、DTSやAACに対応した音場処理に最適化されます。



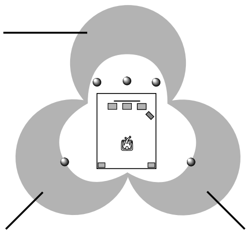
本機はDSPのほかに、下記のような数多くのデコーダーを装備しています。ドルビーサラウンド用にドルビープロロジックデコーダー、ドルビーサラウンドと2チャンネルソース用にドルビープロロジック II デコーダー、マルチチャンネルソース用にドルビーデジタル、DTS 、AAC デコーダー、リアセンターチャンネル音声再生用にドルビーデジタル EX または DTS-ES コンパチブルデコーダーを装備しています。これらのデコーダーや入力ソースに最適な CINEMA-DSP 音場プログラムをお選びください。

サラウンド音場

■ MOVIE THEATER

マトリクス処理を行わない70mmフィルムの6チャンネルマルチトラックで得られるような明瞭な音源の定位と豊かな拡がりを、ダビングステージ(映画の音声を編集するための編集スタジオ)のクオリティと理想的な音場で楽しめるのがMOVIE THEATER70mmプログラムです。最新の映画館用デジタルサラウンドシステムであるドルビーデジタル、DTS(デジタルシアターシステムズ)やAACのサウンドをそのまま家庭でも楽しめるように開発されたのがドルビーデジタルデコーダーおよびDTSデコーダーです。本機のMOVIE THEATERプログラムでは、映画館用にデザインされたドルビーデジタル、DTSやAACサウンドを家庭用のスピーカーシステムで、家庭のスペースで再生しても、臨場感あふれるスケールの大きな音場をお楽しみいただけます。

● [ドルビーデジタル、DTS 、AAC]＋[DSP 音場効果]



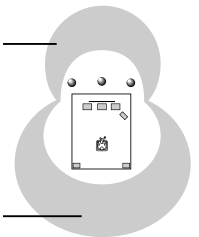
入力ソースがドルビーデジタル、DTS、AAC（5.1チャンネル）の場合

ドルビーデジタルやDTS、AACのフロント、Lサラウンド、Rサラウンド信号に独立したヤマハ3音場DSP処理を施します。これにより、チャンネルセパレーションの良さなどを犠牲にすることなく、雄大な音場表現や包囲感の優れたサラウンド再生が可能になり、最新のデジタルサラウンド映画館のような臨場感が再現できます。

● [ドルビーデジタル EX、DTS-ES コンパチブル、AAC ドルビー EX]＋[DSP 音場効果]

リアセンタースピーカーから再現されたリアセンター音場が加わり、より雄大な音場空間を再現します。

● [ドルビープロロジック]＋[DSP音場効果]



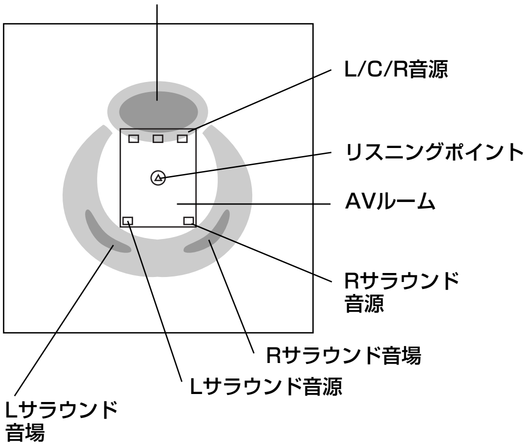
通常、ビデオテープなどの市販の映画ソフトは、ドルビーサラウンドのマトリクス技術によって4チャンネル(L/C/R/S)の音声情報がエンコード処理され、L、Rに収められています。それをデコード(復元)するのがドルビープロロジックデコーダーです。MOVIE THEATERプログラムは、エンコード･デコード処理によって失われがちな拡がり感や微妙な音のニュアンスまでも再現しようというものです。

雄大な音場空間を表現でき、サラウンド音に広がりを持たせることで包囲感が表現できます。また、フロントにも奥行きが出て、ドルビーステレオ映画館のような臨場感が再現できます。

■ ドルビープロロジック II

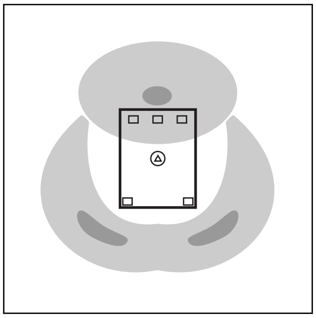
ドルビープロロジック II はドルビーサラウンドソースを ディスクリート５チャンネル（フロントに３チャンネル、リアに２チャンネル）にデコードします。映画用の MOVIE と２チャンネルオーディオソース用の MUSIC の２種類のモードがあります。

3音場処理によるCINEMA-DSP (MOVIE THEATER)の音場イメージ



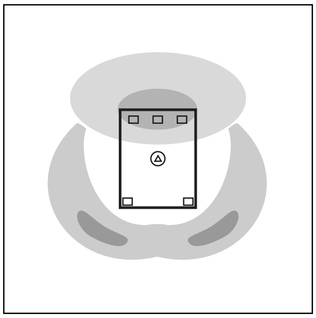
前方、左後方、右後方という3つの音源に対して独立した音場処理を加える、3音場CINEMA-DSP (MOVIE THEATER)の特徴を示しています。それぞれの音場イメージは音場の形、大きさ、濃さを表しています。

Sci-Fi （サイファイ）



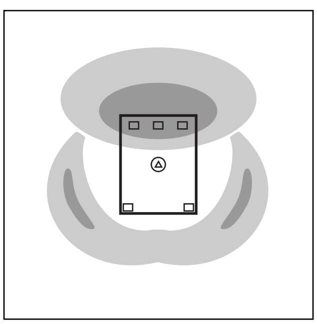
セリフと音楽、効果音をクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出。エフェクトは比較的浅く、リアリティを追求したシリアスでストーリー性の高いSFX映画に特に適しています。

Adventure（アドベンチャー）



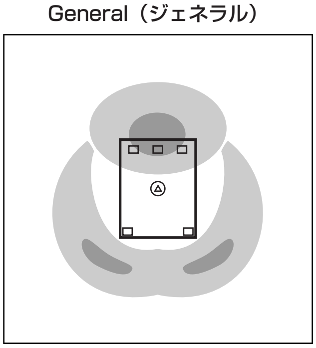
セリフの定位や映像に対する立体的な音場表現力に優れたモードで、エフェクトの深さはSci-FiとSpectacleとの中間。アクション映画などにおける最新のサウンドデザインを忠実に再現します。

Spectacle（スペクタクル）



映画のワンシーンに飛び込んでしまったかのような、超ワイドな空間がイメージできる音場。深めなエフェクトにより、手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品で威力を発揮します。

General（ジェネラル）



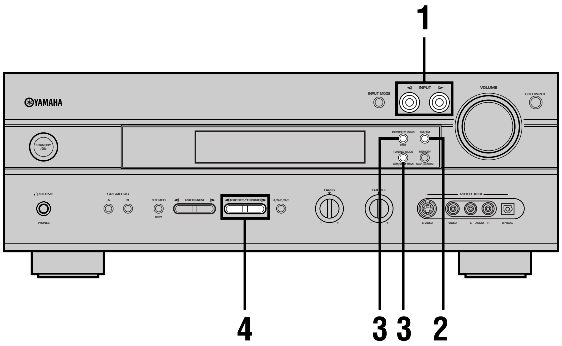
響きを抑えた明瞭なセリフを中心に、スクリーンの周囲と奥に拡がる立体的な音場と柔らかな響きを表現。ラブストーリーやコメディなど、人の心の動きを描写する作品にふさわしいモードです。

FM/AM放送を聴く

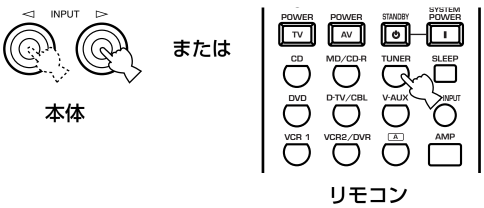
選局する

選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類があります。電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利です。

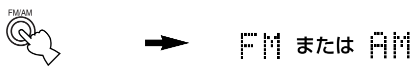
■ 自動的に選局する（オート選局）



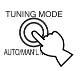
1 INPUT ◁ / ▷ キーかリモコンのTUNER キーを繰り返し押して、「TUNER」を選ぶ。



2 FM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。

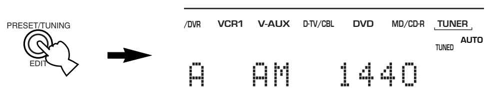


3 TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させる。

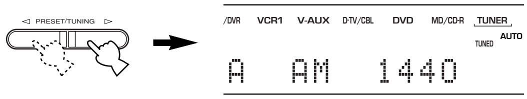


AUTO
点灯

ディスプレイのバンド表示の隣にコロン(:)が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロンを消します。



4 PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押して、受信したい放送局を選ぶ。



高い周波数の放送局を探すときは ▷ キー、低い周波数の放送局を探すときは ◁ キーを押します。

ヒント

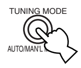
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選局できない時は、手動で選局してください(マニュアル選局)。
- 放送局を受信すると、ディスプレイに「TUNED」が点灯し、周波数が表示されます。

■ 手動でお好みの放送局を選ぶ（マニュアル選局）

電波の弱い放送局は、手動で選ぶ必要があります。

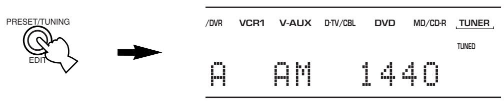
1 左記載の「自動的に選局する（オート選局）」の手順2までの操作をおこなう。

2 TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイのAUTO表示を消す。



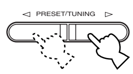
AUTO
消灯

ディスプレイのバンド表示の隣にコロン(:)が点灯している時は、PRESET/TUNING(EDIT)キーを押してコロンを消します。



3 PRESET/TUNING ◁ / ▷ キーを押す。

押し続けると、連続して周波数が変わります。



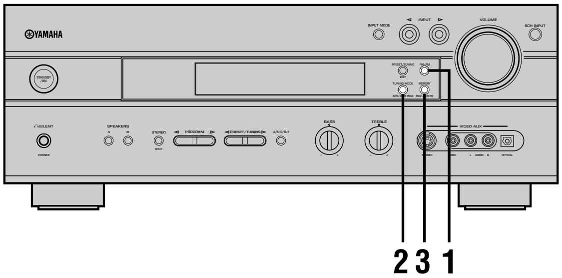
ヒント

マニュアル選局でFMステレオ放送を受信するとモノラル受信になりますが、雑音を軽減できます。

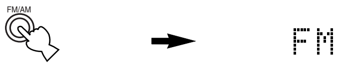
放送局を登録する（プリセット）

■ FM放送局を自動登録する（オートプリセット）

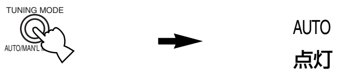
FM放送局を自動的に40局（8局×5グループ）まで登録（プリセット）できます。放送局を登録しておくと、あとは簡単なキー操作で選局することができ、便利です。



1 FM/AMキーを押して、FMを選ぶ。



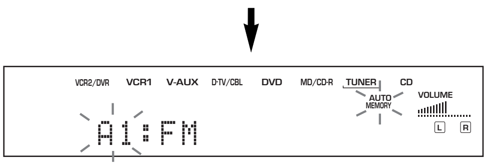
2 TUNING MODE（AUTO/MAN' L MONO）キーを押して、ディスプレイにAUTO表示を点灯させる。



3 MEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORY表示、AUTO表示が点滅します。 数秒後に、周波数表示が高くなり始めます。（オートプリセット開始。）





オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

ヒント
- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モードも同時に登録されます。
- 登録されたFM放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます。詳しくは「登録した放送局を入れ替える」（40ページ）をご覧ください。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合には全周波数帯域を一巡して停止します。

ご注意
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、電波の強いFM放送局だけが登録されます。電波の弱い放送局を登録したいときは、受信モードをモノラルにして、手動で登録してください（次ページ）。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する（オートプリセットオプション）

FM局の登録を始めるプリセット番号を指定したり、周波数の低い方へ向けてオートプリセットを始めることもできます。

1 左記載の「FM放送局を自動登録する（オートプリセット）」の手順2までの操作をおこなう。

2 MEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを約3秒押し続けたあと、A/B/C/D/EキーとPRESET/TUNING ⊲ / ⊳ キーを押して、最初に登録させたいプリセット番号を選ぶ。

放送局が「E8」まですべて登録されると、オートプリセットが停止します。

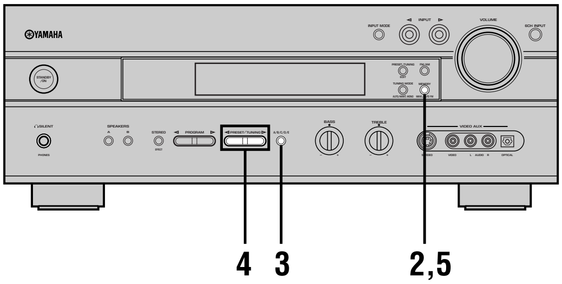
3 PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロン（：）を消してから、PRESET/TUNING ⊲ キーを押す。

周波数表示が低くなり始めます。（オートプリセット開始。）

本機の電源を切っても（電源コードをコンセントから抜いた状態）、選択していたソースや音量レベル、セットメニューなどの設定内容は本機に記憶されています。ただし、電源「切」の状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

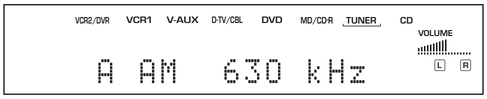
■ 手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局40局までを手動で登録することもできます。



1 プリセットしたい放送局を選局する。

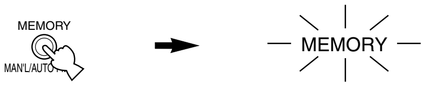
詳しくは「選局する」（37ページ）をご覧ください。



選局時には、ディスプレイに受信している局の周波数と放送バンド（FMまたはAM）が表示されます。

2 MEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを押す。

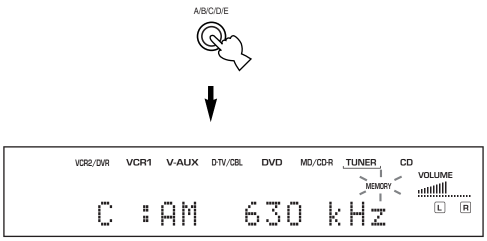
ディスプレイにMEMORY表示が約5秒間点滅し、登録できる状態になります。



点滅

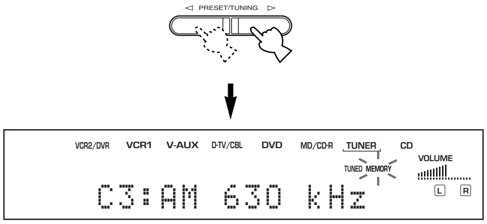
3 MEMORY表示の点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。

グループが表示されます。バンド表示の隣にコロン(:)が点灯していることを確認してください。



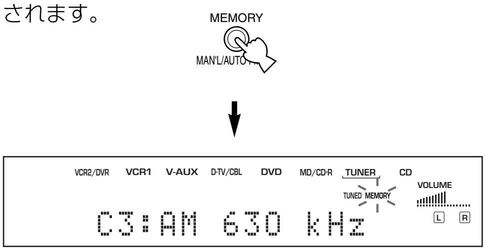
4 MEMORY表示の点滅中にPRESET/TUNING ⊲/⊳ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。

⊳ を押すと数が増え、⊲ を押すと減ります。



5 MEMORY表示の点滅中に、 MEMORY（MAN' L/AUTO FM）キーを押す。

選択したプリセットグループ、プリセット番号と放送バンド(FMまたはAM)、周波数がディスプレイに表示されます。



C3に登録された局を示しています。

6 他の放送局を続けて登録するときは、手順1～5を繰り返す。

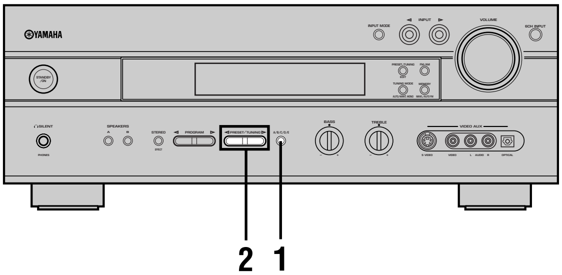
ご注意

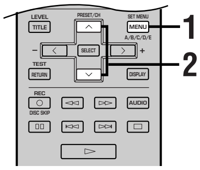
- 新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード(ステレオ／モノラル)も同時に登録されます。

基本操作

登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

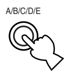
プリセット番号を選ぶだけで、登録した放送局を選局できます。



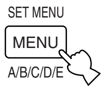


1 **A/B/C/D/Eキーを何回か押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。**

ディスプレイに表示されるプリセットグループはA/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。



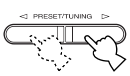
または



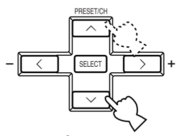
本体　　　　　　リモコン

2 **本体のPRESET/TUNING ◁ / ▷ キー、またはリモコンのPRESET ∧ /∨　キーを押して、プリセット番号を選ぶ。**

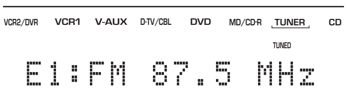
プリセットグループとプリセット番号が、放送バンド(FMまたはAM)と周波数とともにディスプレイに表示され、TUNED表示が点灯します。



または



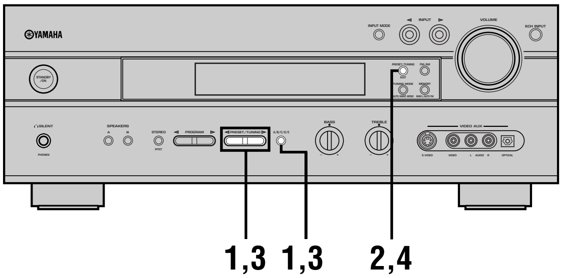
本体　　　　　　リモコン



登録した放送局を入れ替える

登録した放送局を入れ替えることもできます。

ここでは「E1」に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

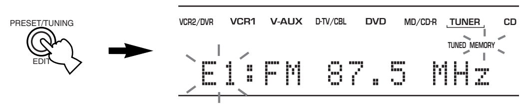


1 **「E1」に登録した放送局を選局する。**

詳しくは、左記載の「登録した局を選んで聴く（プリセット選局）」をご覧ください。

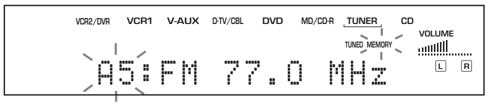
2 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを約3秒間押す。**

「E1」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。



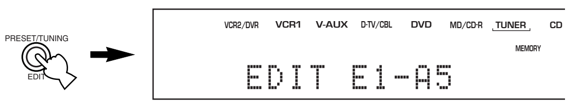
3 **「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/EとPRESET/TUNINGキーを使って選局する。**

「A5」とMEMORY表示がディスプレイに点滅します。



4 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。**

プリセット局が入れ替わります。



プリセットした局の入れ替えが完了したことを示しています。

一定時間後に自動的に電源を切る（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、本機が自動的にスタンバイ状態になるように設定できます（スリープタイマー）。聴きながら、もしくは録音しながらおやすみになりたいときに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面の電源供給コンセントに接続した機器（ソース）の電源も「切」になります。

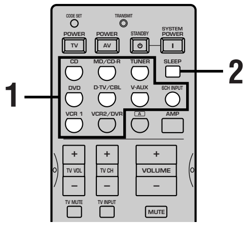
スリープタイマーの設定はリモコンで行います。

ヒント

タイマー再生をしたいときは

市販のタイマーをお使いください。詳しくはタイマーの取扱説明書をご覧ください。

スリープタイマーを設定する



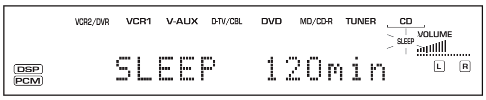
1 ソースを選んで、再生する。

2 SLEEPキーを何回か押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する。

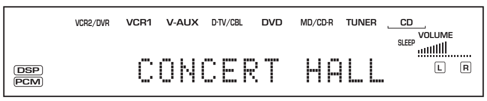


SLEEPキーを押すごとに、ディスプレイ表示が下記のように切り替わります。（min=分）

→ SLEEP 120 min → SLEEP 90 min →
SLEEP OFF ← SLEEP 30 min ← SLEEP 60 min ←



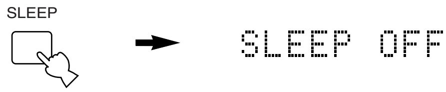
スリープタイマーが設定されるとディスプレイにSLEEP表示が点灯してから、音場プログラム表示に戻ります。



スリープタイマーを解除する

「SLEEP OFF」の表示が出るまで、SLEEPキーを何回か押す。

しばらくすると「SLEEP OFF」は消え、SLEEP表示も消えます。ディスプレイは音場プログラム表示に戻ります。

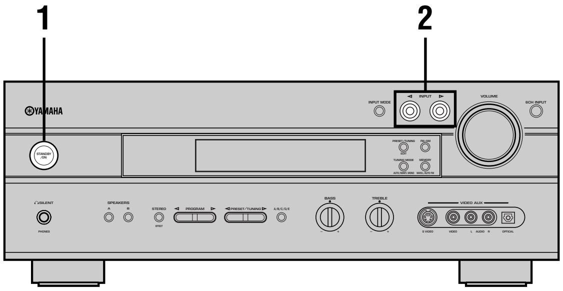


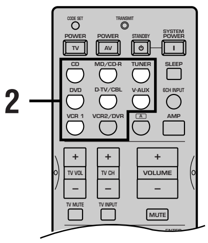
ヒント

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜いてもスリープタイマーは解除されます。

録音／録画する

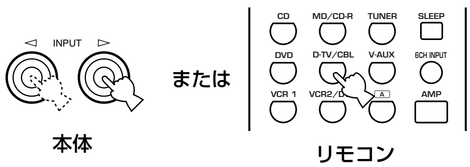
録音レベルの調節や操作は、それぞれの録音機器で行います。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。





1 本機に接続しているすべての機器の電源を入れる。

2 録音／録画したい入力ソースを選ぶ。



3 ソースを再生する。

AM/FM放送の番組を録音したいときは、放送局を選局します。

4 録音／録画を開始する。

ご注意

- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」を行ってください。
- 本機をスタンバイ状態にすると、接続した機器間で録音／録画することはできません。
- 録音中に音量や音質を調整したり、音場プログラムを変更したりしても、録音される音声には影響しません。
- 6CH INPUT端子から入力された信号は録音できません。
- 入力ソースのREC OUT端子からは、信号は出力されません。（例：VCR 1 INの信号はVCR 1 OUT端子から出力されません。）
- あなたが録音したものは個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

DTSソフトの録音についてのご注意

DTS信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音しても、ノイズだけが録音されます。DTS対応ディスクの信号を録音するためには、下記の点にご注意ください。

お使いのプレーヤーがDTSデコーダーを内蔵している場合は、DTS対応のDVD、LD、CDは、2チャンネルのアナログ信号で録音してください。録音時にはプレーヤーからアナログ信号で出力するように設定してください。詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

タイマー再生／録音する

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。

ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、そちらの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ヒント

タイマー再生／録音時には、本機のメモリーに記憶された内容（入力ソース等）が反映されます。

ご注意

- タイマー録音で録音中に音出しをしない場合は、音量を絞ってください。
- 本機の電源を切っても（電源コードをコンセントから抜いた状態）、選択していたソースや音量レベル、セットメニューなどの設定内容は本機に記憶されています。ただし、電源「切」の状態が1週間以上続くと、記憶内容が消去されることがあります。

セットメニューで設定を変更する

本機には、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、下記のセットメニューで設定を変更することができます。お使いの環境にあわせて設定を変更してください。

ヒント

再生中でも、セットメニューで設定を変更できます。

セットメニュー一覧

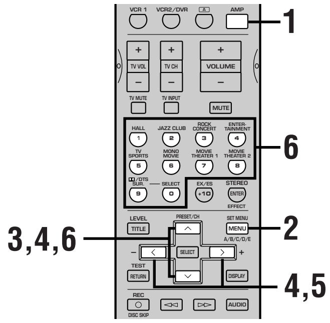
本機には、下記の項目のセットメニューが用意されています。

項目	初期設定(値)＊
1 SPEAKER SET	
A CENTER	LRG (large)
B MAIN	LARGE
C REAR LR	LRG (large)
D REAR CT	LRG (large)
E BASS	BOTH
F MAIN Lv	Nrm (Normal)
2 LFE LEVEL	
SP LFE	0 dB
HP LFE	0 dB
3 SP DLY TIME	
CENTER	0 ms
REAR CNTR	3 ms
4 D. RANGE	
SP D.R	MAX
HP D.R	MAX
5 L/R BALANCE	0 dB for L/R
6 HP TONE CTRL	
HP BASS	0 dB
HP TRBL	0 dB
7 I/O ASSIGN	
A (component video input)	[A] DVD [B] D-TV/CBL
B (optical output)	(1) MD/CD-R
C (optical input)	(2) MD/CD-R (3) DVD (4) D-TV/CBL
D (coaxial input)	(5) CD
8 INPUT MODE	AUTO
9 DISPLAY SET	
DIMMER	0
10 MEM. GUARD	OFF
11 DUAL MONO	MAIN

＊ 次ページからの各項目の説明の中で、初期設定値は太字で記しています。

セットメニューの操作手順

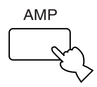
リモコンで操作します。



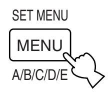
ご注意

項目によっては、さらに別な操作が必要となる場合もあります。

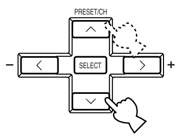
1 AMPキーを押す。



2 SET MENUキーを押す。



3 ∧ キーまたは ∨ キーを繰り返し押して、設定したいメニュー（1～11）を選ぶ。



SET MENUキーを繰り返し押しても、∨ キーと同じ順番でセットメニューの項目を選べます。

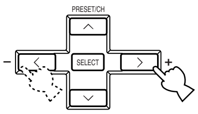
ご注意

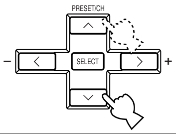
ディスプレイにSET MENUの1が表示されているときに∧を押すと、SET MENUモードが終了してしまいます。(SET MENUの11が表示しているときに ∨を押す場合も同様です。)

4 **＜キーまたは＞キーを押す。**

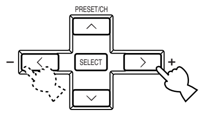
選んだメニューの設定モードに入り、現在の設定が本体ディスプレイに表示されます。

項目によっては ∧ キーまたは ∨ キーを押して、サブメニューを選びます。

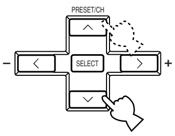




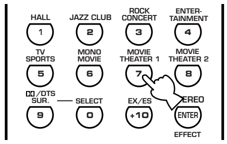
5 **＜キーまたは＞キーを繰り返し押して、設定を変える。**



6 **セットメニューを終了するときは、音場プログラム表示になるまで ∧ キーまたは ∨キーを繰り返し押すか、プログラムキーのどれかを押す。**



または



メモリーバックアップについて
本機の電源を切っても、セットメニューの設定内容はメモリー（記憶）されています。約1週間は電源コードをコンセントから外しても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし1週間を過ぎると、セットメニューが初期設定に戻り、メモリー内容が消去されることがあります。このような場合は再度、設定を行ってください。

システムにあわせて、スピーカーモードを設定する（1 SPEAKER SET）

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、スピーカーモードを設定します。スーパーウーファーをご使用になる場合は必ず設定してください。

ヒント
スピーカーの設定項目では、目安として、ウーファーの口径が16cm以下のスピーカーをお使いの場合は「SML」、それ以上の口径の場合は「LRG」をおすすめします。

ご注意
- 6CH INPUT端子から入力した信号には、「1F MAIN Lv」以外のスピーカーモードの設定は反映されません。
- 48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が入力された場合は、項目によっては、設定が再生音声に反映されない場合があります。

■ 1A CENTER

センタースピーカーの有無や性能に応じて、出力モードを選びます。

選択項目: LRG (large), SML (small), NON (none)
初期設定: LRG

LRG：大型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。センターチャンネル信号の全帯域が、そのままセンタースピーカーに出力されます。
SML：小型のセンタースピーカーを使用するときに選びます。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。
NON：センタースピーカーを使用しないときに選びます。センターチャンネル信号は、メインのL、Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

■ 1B MAIN

メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選びます。

選択項目: LARGE, SMALL
初期設定: LARGE

LARGE:大型のメインスピーカーを使用するときに選びます。メインL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままメインL、Rスピーカーに出力されます。
SMALL:小型のメインスピーカーを使用するときに選びます。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。

ご注意

SMALL設定時でも、「1E BASS」の設定がMAINの場合は、メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域はメインに出力されます。

■ 1C REAR LR

リアスピーカーL、Rの性能や有無に応じて、出力モードを選びます。

選択項目: LRG (large), SML (small), NON (none)
初期設定: LRG

LRG:大型のリアL、Rスピーカーを使用していたり、リアL、Rスピーカーにリア側スーパーウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合に選びます。リアL、Rチャンネル信号の全帯域が、そのままリアスピーカーに出力されます。
SML:小型のリアL、Rスピーカーを使用するときに選びます。リアL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。
NON:リアL、Rスピーカーを使用しないときに選びます。リアL、Rの信号はメインL、Rにそれぞれ振り分けられます。

ヒント

- NONに設定されている場合は、音場効果を「入」にするとバーチャルシネマDSPモードになります。
- NONに設定されている場合は、セットメニューから「1D REAR CT」がスキップされ、設定できません。

■ 1D REAR CT

リアセンタースピーカーを加えると、前後の移動感や奥行き感などをよりリアルに再現することができます。

選択項目: LRG (large), SML (small), NON (none)
初期設定: LRG

LRG:大型のリアセンタースピーカーを使用する場合のモードです。リアセンターチャンネル信号の全帯域が、そのままリアセンタースピーカーに出力されます。
SML:小型のリアセンタースピーカーを使用するときに選びます。リアセンターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「1E BASS」で選ぶスピーカーに出力されます。
NON:リアセンタースピーカーを使用しないときに選びます。リアセンターの信号はリアL、Rにそれぞれ振り分けられます。

■ 1E BASS

LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選びます。

LFE信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AAC作動時に出力される、90Hz以下の低域効果音のことです。

選択項目: SWFR (subwoofer), MAIN, **BOTH**
初期設定: BOTH

SWFR:スーパーウーファーを使用するときに選びます。LFE信号と、1A～1Cの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、スーパーウーファーに出力されます。
MAIN:スーパーウーファーを使用しないときに選びます。LFE信号と、1A～1Cの設定による他チャンネルの低音域(90Hz以下)が、メイン L、Rスピーカーに出力されます。
BOTH:スーパーウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、90Hz以下の低音域をLFEチャンネルにミックスするときに選びます。
メインスピーカーL、Rチャンネルの低音域が、メインスピーカーL、Rとスーパーウーファーの両方に出力されます(2チャンネル再生やドルビーサラウンド再生時に、スーパーウーファーから音声を出力できます)。

ご注意

1A～1Dを「SML (SMALL)」に設定している場合は、他チャンネルの低音域(90Hz以下)がLFEチャンネルにミックスされて、「1E BASS」で選んだスピーカーから出力されます。

■ 1F MAIN Lv

メインスピーカーレベルを選びます。
メインスピーカーが極端に高能率で、他の出力レベルがメインスピーカーに合わない場合には、メインレベルを下げて音声のバランスを取ることができます。

選択項目: Nrm (Normal), −10 dB
初期設定: Nrm

Nrm:通常はこの設定にします。
−10 dB:センタースピーカーやリアスピーカーの出力レベルがメインスピーカーに合わない場合は、この設定にします。
メインレベルが−10 dB(約1/3)になります。

LFE信号の再生レベルを調節する（2 LFE LEVEL）

ドルビーデジタルやDTS、AAC信号を再生中に、LFE (低周波効果) チャンネルの出力レベルを調節します。
LFE信号は、特定シーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。

可変範囲(dB):（スピーカー、ヘッドホン共に）
−20〜0 dB
初期設定: 0dB

1 **﹀キーや︿キーを押して、項目（スピーカーかヘッドホン）を選ぶ。**

2 **＜キーを押して、LFEレベルを調節する。**

ご注意

使用するスーパーウーファーとヘッドホンの性能に応じて、LFEレベルを調節してご使用ください。

センタースピーカーおよびリアセンタースピーカーのディレイタイムを設定する（3 SP DLY TIME）

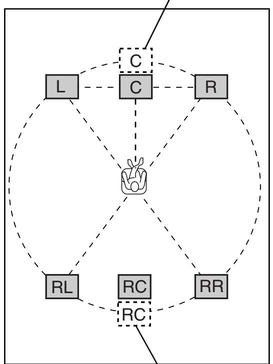
センタースピーカーとリアセンタースピーカーの音響遅延時間（ディレイタイム）を設定できます。ドルビーデジタルやDTS、AAC再生時など、センタースピーカーとリアセンタースピーカーから音声を出力する場合に有効です。

通常フロント側のセンタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に置きますが、本来ならば同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想的です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーとリアセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと前後3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。センターディレイは、音場の奥行き感やセリフの量感を増す効果があります。

可変範囲(ms): （センター）0〜5ms
（リアセンター）0〜30ms
初期設定: （センター）0ms
（リアセンター）3ms

＞キーを押すとスピーカーの仮想的位置が遠くなり、
＜ キーを押すと近くなります。

仮想センタースピーカー位置



仮想リアセンタースピーカー位置

ヒント

目安としてディレイタイムを1ms増すと視聴位置から約30cm遠ざかったことになります。

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを設定する（4 D. RANGE）

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を3段階から選べます。

選択項目: MAX (最大), STD (標準), MIN (最小)
初期設定: MAX

MAX：信号ソースのダイナミックレンジを最大限に再生します。

STD(STANDARD)：ソフト製作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN：小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによっては、ダイナミックレンジのMINに対応していないため、音量が極端に下がる場合があります。このようなときは、ダイナミックレンジをMAXまたはSTDに設定してご使用ください。

メインスピーカーの音量バランスを調整する（5 L/R BALANCE）

メインスピーカーL、Rの音量バランスを設定できます。設定した音量バランスは、ヘッドホン使用時にも反映されます。

可変範囲: 左右ともに10段階
初期設定: 中央

＞キーを押すと左(L)のメインスピーカーの音が小さくなり、＜キーを押すと右(R)のメインスピーカーの音が小さくなります。一方のチャンネルの音声だけを完全に消すことはできません。

ヘッドホンの音質を調整する（6 HP TONE CTRL）

ヘッドホンの低音域(BASS)および高音域(TRBL)を調節できます。

可変範囲 (dB):
BASS .... −6〜+3
TRBL .... −6〜+3
初期設定:
BASS 0dB
TRBL 0dB

＞キーを押すと低音域または高音域が大きくなります。
＜キーを押すと小さくなります。

入出力端子の割り当てを変更する（7 I/O ASSIGN）

使用する機器と本機のCOMPONENT VIDEO入力端子やDIGITAL INPUT/OUTPUT端子の設定（端子の機器名）が異なる場合に、使用する機器に合わせて端子を割り当てられます。使用する機器によりデジタル入力端子が足りなくなった場合などに、端子の割り当てを変更することでより多くの機器を使用できます。

変更後は、割り当てた機器を入力選択キーで選択できます。

■ 7A COMPONENT（コンポーネント） VIDEO（ビデオ） INPUT（インプット）端子 [A]/[B]

選択項目: [A] **DVD**, V-AUX, VCR 2/DVR, VCR 1, D-TV/CBL
[B] DVD, V-AUX, VCR 2/DVR, VCR 1, **D-TV/CBL**
初期設定: [A] **DVD**
[B] **D-TV/CBL**

■ 7B OPTICAL（オプティカル） OUTPUT（アウトプット） 端子 (1)

選択項目: (1) **MD/CD-R**, CD, V-AUX, VCR 2/DVR, VCR 1, D-TV/CBL, DVD
初期設定: (1) **MD/CD-R**

■ 7C OPTICAL（オプティカル） INPUT（インプット） 端子 (2)〜(4)

選択項目: (2) **MD/CD-R**, CD, VCR 2/DVR, VCR 1, D-TV/CBL, DVD
(3) MD/CD-R, CD, VCR 2/DVR, VCR 1, D-TV/CBL, **DVD**
(4) MD/CD-R, CD, VCR 2/DVR, VCR 1, **D-TV/CBL**, DVD
初期設定: (2) **MD/CD-R**
(3) **DVD**
(4) **D-TV/CBL**

■ 7D COAXIAL（コアキシアル） INPUT（インプット） 端子 (5)

選択項目: (5) MD/CD-R, **CD**, V-AUX, VCR 2/DVR, VCR 1, D-TV/CBL, DVD
初期設定: (5) **CD**

ご注意

- 7A〜7Dの各項目の中で、同一の端子名を指定することはできません。
- 同じ入力系統のCOAXIAL端子とOPTICAL端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力信号が優先されます。
- 各項目の（　）内の数字およびアルファベットはリアパネルに記載してある端子の位置を示しています。

応用操作

電源を入れたときの入力モードを設定する（8 INPUT MODE)

デジタルとアナログの両方の形式の再生機器を接続している場合などに、電源を入れたときの入力モードを選べます。

選択項目: **AUTO**, LAST
初期設定: **AUTO**

AUTO:最後に操作したときの入力モード設定に関わらず、本機の電源を入れると入力モード設定が自動的に「AUTO」に設定されます。

LAST:最後に操作したときの入力モードが、そのまま反映されます。

ディスプレイの設定を変更する（9 DISPLAY SET）

■ DIMMER（明るさ）

ディマー

本体ディスプレイの明るさを調節します。

可変範囲:－4～0
初期設定:0

くキーを押すと、本体ディスプレイが暗くなります。

変更した設定値を保護する（10 MEM. GUARD）

変更した設定値を、誤って変更できないように保護できます。

選択項目: ON, **OFF**
初期設定: **OFF**

ONにしたときに保護される設定は、下記の通りです。

- 音場プログラムのパラメーター設定値
- MEMORY GUARD以外のセットメニュー設定値
- センター、リア、リアセンター、スーパーウーファーの音量

ご注意

- 「10 MEM. GUARD」をONにすると、他のセットメニューは選択できません。
- 「10 MEM. GUARD」をONにすると、テストトーンは使用できません。

二重音声出力時の出力モードを変更する（11 DUAL MONO）

BSデジタル放送などで使われる、二重音声出力時の主音声と副音声の出力モードを設定できます。

選択項目: MAIN、SUB、ALL
初期設定: MAIN

MAIN:主音声のみをメインL、Rスピーカーから出力します。

SUB:副音声のみをメインL、Rスピーカーから出力します。

ALL:主音声と副音声をメインL、Rスピーカーからそれぞれ同時に出力します。PCM信号が入力されている場合のL、Rチャンネルへの音声の振り分けは、BSデジタルチューナー側の設定によって異なります。詳しくはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- この設定はAAC、ドルビーデジタル信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの多重音声（マルチモノ）信号の受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第3、第4チャンネルを選ぶことはできません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で音声の主／副を選んでください。

付属リモコンのはたらき

付属のリモコンを使って、本機以外のヤマハ製AV機器も操作できます。メーカーコード(各メーカー機器ごとに割り当てられた信号)を設定すれば、同様に他社製の機器を、本機付属のリモコンで操作できます。

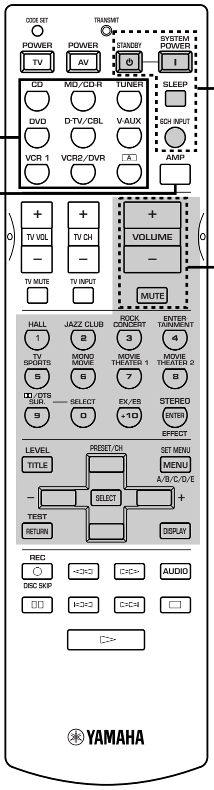
リモコン操作範囲

■ 本機を操作する

下の影部分内のキーは AMP モード中に本機を操作するために使用します。AMPモードを選択するにはAMPキーを押してください。

A キーと入力選択キー

本機を操作する際には A M P キーを押します。

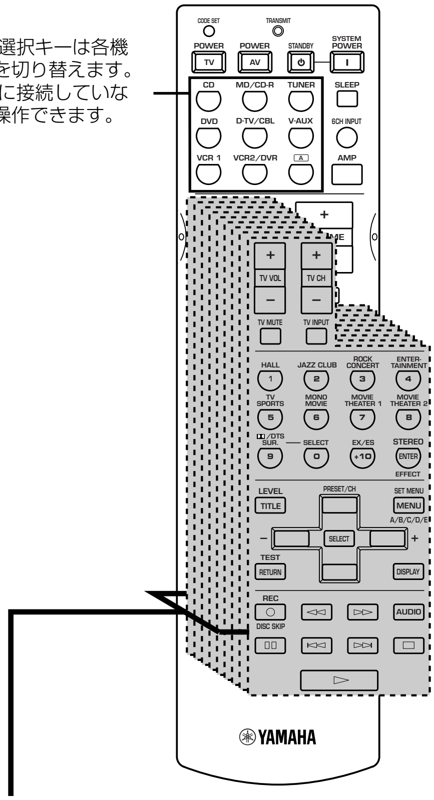


点線部分内のキー(SYSTEM POWER、STANDBY、SLEEP、6CH INPUT、VOL＋/－、MUTE)はどのモードでも機能します。

■ 他の機器を操作する

下の影部分内のキーは他の機器を操作するために使用します。選択機器によって各キーの機能が変わります。入力選択キーを押して操作する機器を選択してください。

A キーと入力選択キーは各機器の操作範囲を切り替えます。A キーは本機に接続していない他の機器も操作できます。



機器操作範囲
９つまでの異なる機器を操作できます。また、メーカーコードの設定や、各機器用に他リモコン機能も設定できます。

ご注意

- リモコンの一般的な操作キーは、操作モードによって異なります。詳しくは「他の機器を操作する」(51ページ)をご覧ください。
- 工場出荷時には一部の入力ソースにヤマハのメーカーコードが設定されていますが、お手持ちのヤマハ製AV機器によっては操作できない場合があります。その場合はヤマハの別のメーカーコードをお試しください。
- 付属のリモコンは、市販されている全てのAV機器(ヤマハAV機器を含む)のメーカーコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できないことがあります。いずれのメーカーコードでも作動しないときは、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- リモコンから乾電池を抜いたまま2分以上放置したり、消耗した乾電池がリモコンに入ったままになっていると、メモリーの内容が消去されることがあります。

リモコンで操作できる機器を指定する（メーカーコードの設定）

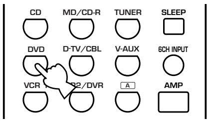
入力選択キーごとに、操作できる機器の種類(ライブラリ)と各メーカー機器ごとに割り当てられた信号(メーカーコード)を指定できます。
お使いのシステムにあわせて、ライブラリとメーカーコードを設定してください。

詳しくは、本書末に記載の「メーカーコード一覧表」（63ページ）をご参照ください。

工場出荷時には下記のメーカーコードが設定されています。

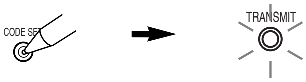
入力選択キー	ライブラリ	メーカー名	メーカーコード
CD	CD	YAMAHA	0005
MD/CD-R	MD	YAMAHA	0024
TUNER	TUNER	YAMAHA	0003
DVD	DVD	YAMAHA	0098
D-TV/CBL	–	–	–
V-AUX	–	–	–
VCR 1	–	–	–
VCR 2/DVR	–	–	–
A	–	–	–

1 入力選択キーかⒶキーを押して、設定したい機器を選ぶ。



2 ボールペンの先などでCODE SET キーを押す。

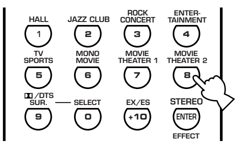
TRANSMITインジケーターが2回点滅します。



ご注意

手順2の操作後、30秒以内に手順3にすすまないと、(設定操作は) 途中でキャンセルされてしまいます。その際はもう一度手順 1 からやり直してください。

3 数字キーを押して、使用する機器のメーカーコード（4 けたの数字）を入力する。



TRANSMITインジケーターが2回点滅します。

ヒント

メーカーコードを入力する際には･･･

- 数字キーを押すごとに LED の点灯を確認してください。
- 最後に LED が 2 回点滅することを確認してください。
- 素早く 6 回点滅した場合は、入力が失敗していますので、メーカーコードと入力方法を確認して、入力しなおしてください。

ご注意

- お使いの機器メーカーが 1 つ以上のコードをもっている場合は、各コード番号を入力し、正しいコードを探してください。
- 手順３は、30秒以内に操作しないと、(設定操作は) 途中でキャンセルされてしまいます。その際はもう一度手順2からやり直してください。
- 1つの入力ソースには、1つのメーカーコードしか設定できません。

リモコンを初期化する（メーカーコードを工場出荷時の設定に戻す）

1 左記載の「リモコンで操作できる機器を指定する（メーカーコードの設定)」の手順 2 までの操作をおこなう。

取り消したいメーカーコードの機器操作キーを選んでください。

2 数字キーを使って“0000”を入力する。

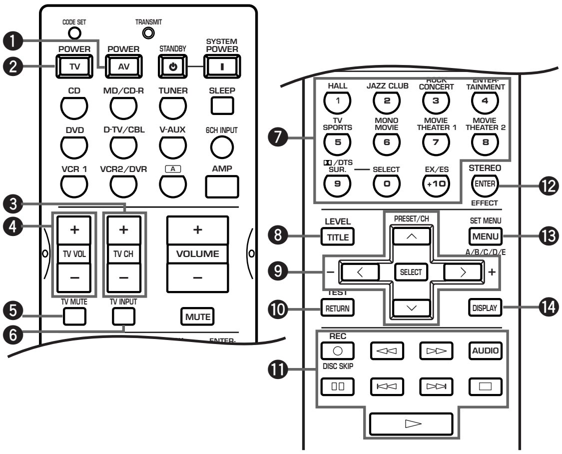
TRANSMITインジケーターが2回点滅し、選択した機器のメーカーコード設定は取り消されます。

ヒント

コード番号「9990」を入力すると、設定したメーカーコードをすべて取り消すことができます。

他の機器を操作する

お使いの機器のメーカーコードを設定すると、本機以外の機器も操作できます。入力選択キーで入力ソースを選択すると、リモコンはその機器を操作するモードに切り替わります。
（お手持ちの機器によっては、いくつかのキーが機能しなかったり、操作が本書の説明と一致しないことがあります。その場合にはお持ちの機器に付属のリモコンをお使いください。）



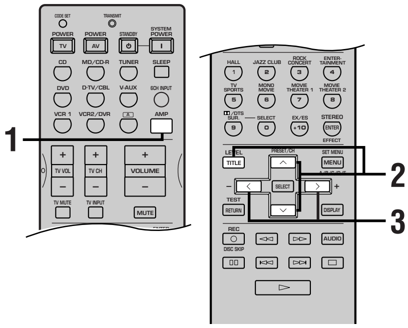
	DVD player (DVDプレーヤー)	VCR (ビデオデッキ)	TV, digital/cable TV (テレビ)	CD player (CDプレーヤー)	CD/MD recorder (CD/MDレコーダー)	Tuner (チューナー)
❶ AV POWER	*[1]POWER	*[1]POWER	*[3]ビデオデッキ POWER	*[1]POWER	*[1]POWER	*[1]POWER
❷ TV POWER	*[2]テレビ POWER	*[2]テレビ POWER	*[2]テレビ POWER	*[2]テレビ POWER	*[2]テレビ POWER	*[2]テレビ POWER
❸ TV CH +	*[2]テレビのチャンネル選択(+)	*[2]テレビのチャンネル選択(+)	テレビのチャンネル選択(+)	*[2]テレビのチャンネル選択(+)	*[2]テレビのチャンネル選択(+)	*[2]テレビのチャンネル選択(+)
TV CH −	*[2]テレビのチャンネル選択(−)	*[2]テレビのチャンネル選択(−)	テレビのチャンネル選択(−)	*[2]テレビのチャンネル選択(−)	*[2]テレビのチャンネル選択(−)	*[2]テレビのチャンネル選択(−)
❹ TV VOL +	*[2]テレビの音量(+)	*[2]テレビの音量(+)	テレビの音量(+)	*[2]テレビの音量(+)	*[2]テレビの音量(+)	*[2]テレビの音量(+)
TV VOL −	*[2]テレビの音量(−)	*[2]テレビの音量(−)	テレビの音量(−)	*[2]テレビの音量(−)	*[2]テレビの音量(−)	*[2]テレビの音量(−)
❺ TV MUTE	*[2]テレビの消音	*[2]テレビの消音	テレビの消音	*[2]テレビの消音	*[2]テレビの消音	*[2]テレビの消音
❻ TV INPUT	*[2]テレビの入力切り替え	*[2]テレビの入力切り替え	テレビの入力切り替え	*[2]テレビの入力切り替え	*[2]テレビの入力切り替え	*[2]テレビの入力切り替え
❼ 1-9, 0, +10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー
❽ TITLE	タイトルメニュー表示					
❾ PRESET/CH ∧	メニュー選択（上へ）	ビデオデッキのチャンネル選択(+)				登録チャンネル選択(+)
PRESET/CH ∨	メニュー選択（下へ）	ビデオデッキのチャンネル選択(−)				登録チャンネル選択(−)
PRESET/CH <	メニュー選択（左へ）					
PRESET/CH >	メニュー選択（右へ）					
SELECT	メニュー選択決定					
❿ RETURN	前の画面に戻る（メニュー等）					
⓫ REC/DISC SKIP	*[5]ディスクスキップ	録画	*[3]ビデオデッキの録画	*[5]ディスクスキップ	*[4]録音	
▷	再生	再生	*[3]ビデオデッキの再生	再生	再生	
◁◁	巻き戻し	巻き戻し	*[3]ビデオデッキの巻き戻し	巻き戻し	巻き戻し	
▷▷	早送り	早送り	*[3]ビデオデッキの早送り	早送り	早送り	
AUDIO	オーディオメニュー表示					
▯▯	一時停止	一時停止	*[3]ビデオデッキの一時停止	一時停止	一時停止	
|◁◁	チャプタースキップ(−)			スキップ(−)	スキップ(−)	
▷▷|	チャプタースキップ(+)			スキップ(+)	スキップ(+)	
□	停止	停止	*[3]ビデオデッキの停止	停止	停止	
⓬ ENTER	タイトル/インデックス表示	項目決定（メニュー画面）	12	インデックス表示	インデックス表示	
⓭ MENU	メニュー表示					登録グループからの選択 (A/B/C/D/E)
⓮ DISPLAY	ディスプレイ表示			ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	

*[1] 機器のリモコンに POWER キーがあるときだけ、機能します。
*[2] テレビのメーカーコードが D-TV/CBL または Ⓐ に設定されている場合は、入力を切り替えなくてもお手持ちのテレビを操作することができます。
*[3] ビデオデッキのメーカーコードが VCR に設定されている場合は、入力を VCR に切り替えなくてもお手持ちのビデオデッキを操作することができます。
*[4] CD レコーダーでは操作できません。
*[5] ディスクチェンジャー機能のないプレーヤーでは操作できません。

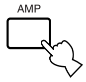
応用操作

エフェクトスピーカーの音量を調節する

再生音を聴きながら、エフェクトスピーカー(センター、リアR、リアL、スーパーウーファー)の音量を調節できます。調節はリモコンで行います。



1 **AMPキーを押す。**

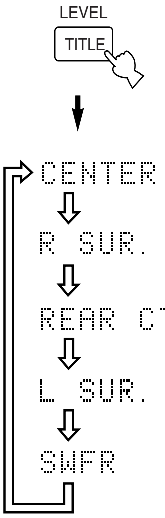


(ソース再生中)

2 **LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。**

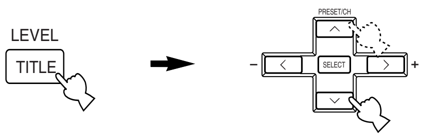
LEVELキーを押すごとに、下記の順に調節するスピーカーが切り替わります。

CENTER(センター)→R SUR.(リアR)→REAR CT(リアセンター)→L SUR.(リアL)→SWFR(スーパーウーファー)→CENTER(センター)→...



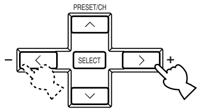
ヒント

LEVELキーでレベル表示にすると、∨キーまたは∧キーでもスピーカーを選べます。



3 **＜キーまたは＞キーを押して、スピーカーの音量を調節する。**

- センターおよびリアL、Rスピーカーの調節範囲は、＋10～－10dBです。
- スーパーウーファーの調節範囲は、－20～0dBです。



ご注意

- セットメニューの「1A CENTER」および「1C REAR LR」がNONに、「1E BASS」がMAINに設定されている場合は、そのスピーカーのレベル(音量)は調整できません。
- LEVELキーでスピーカーレベル(音量)を調節すると、テストトーンで調節したスピーカーレベル(音量)も変更されます。
- あらかじめ20～21ページの「テストトーンで調節する」に記載されている手順にそってスピーカーを調節することをお勧めします。

■ 6ch Stereo選択時のスピーカーレベル調節

音場プログラム「6ch Stereo」モード専用のレベル調節をおこなうことができます。
50%にすると、各チャンネルの出力レベルが半分になり、0%にすると音は出なくなります。

CT LEVEL（センター レベル）

- **機能**：6ch Stereoモード時にセンターチャンネルの出力レベルを調節します。

RL LEVEL（リア レフト レベル）

- **機能**：6ch Stereoモード時にリアレフトサラウンドチャンネルの出力レベルを調節します。

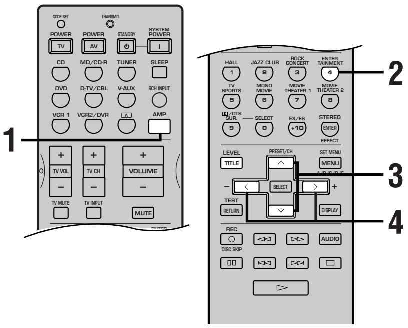
RR LEVEL（リア ライト レベル）

- **機能**：6ch Stereoモード時にリアライトサラウンドチャンネルの出力レベルを調節します。

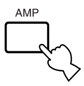
RC LEVEL（リア センター レベル）

- **機能**：6ch Stereoモード時にリアセンターチャンネルの出力レベルを調節します。

- **可変範囲**：0〜100%（各スピーカー）
- **初期設定**：100%（各スピーカー）

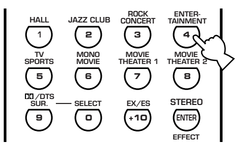


1 AMPキーを押す。

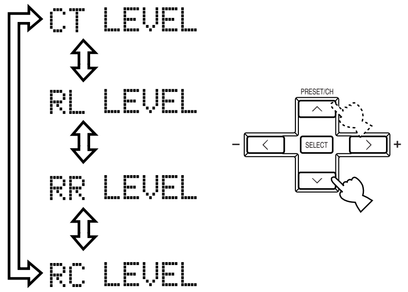


（ソース再生中）

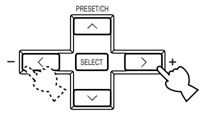
2 リモコンの数字キー「4」を押して「6ch Stereo」を選ぶ。



3 ∧ キーまたは ∨ キーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。



4 ＜キーまたは＞キーを押して、スピーカーの音量レベルを調節する。



ご注意

- 6ch Stereoで調節した音量レベルは、テストトーンやLEVELキーで調節した音量レベルにも反映されます。（6ch Stereoモード時のみ）
- セットメニューの「1A CENTER」および「1C REAR LR」がNONに、「1E BASS」がMAINに設定されている場合は、そのスピーカーのレベル（音量）は調整できません。

メモリーバックアップについて
本機の電源を切っても、セットした内容は消えずに記憶（メモリー）されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消え、工場出荷時の設定に戻ります。その場合は、もう一度セットしなおしてください。

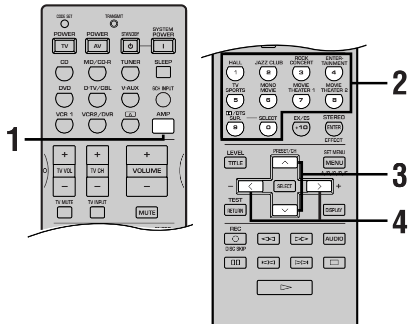
応用操作

ディレイタイムを調節する

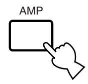
ディレイタイムは各音場プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聞きながらソースやリスニングルームの状況に応じてさらに調節することができます。
メインスピーカーの音とリアスピーカーのサラウンド音が出力されるときの時間差をディレイタイムといいます。数値を大きくするほどサラウンド音が遅れて出力され、音場空間が大きく感じられます。ディレイタイムは各音場プログラムごとに設定することができます。
下記の表は工場出荷時に設定されたディレイタイムです。

	プログラム名	初期設定(ms)
1	CONCERT HALL	45
2	JAZZ CLUB	30
3	ROCK CONCERT	15
4	DISCO	26
	GAME	36
	CONCERT VIDEO	21
5	TV SPORTS	10
6	MONO MOVIE	69
7	70 mm SPECTACLE	23
	DGTL SPECTACLE	15
	DTS SPECTACLE	15
	AAC SPECTACLE	15
	Spectacle EX	15
	Spectacle ES	15
	70 mm SCI-FI	20
	Sci-Fi EX	15
	Sci-Fi ES	15
	DGTL SCI-FI	15
	DTS SCI-FI	15
	AAC SCI-FI	15
8	70 mm ADVENTURE	20
	DGTL ADVENTURE	15
	DTS ADVENTURE	15
	AAC ADVENTURE	15
	Adventure EX	15
	Adventure ES	15
	70 mm GENERAL	20
	DGTL GENERAL	15
	DTS GENERAL	15
	General EX	15
	General ES	15
	AAC GENERAL	15
9	PRO LOGIC/NORMAL	15
	DOLBY DIGITAL/NORMAL	5
	DTS DIGITAL SUR./NORMAL	5
	AAC DIGITAL SUR./NORMAL	5
	Dolby D EX	5
	DTS-ES	5
	PRO LOGIC/ENHANCED	20
	DOLBY DIGITAL/ENHANCED	5
	DTS DIGITAL SUR./ENHANCED	5
	AAC DIGITAL SUR./ENHANCED	5
	Enhanced EX	5
	Enhanced ES	5
	PRO LOGIC II Movie	15
	PRO LOGIC II Music	5

リモコンを使って調節してください。



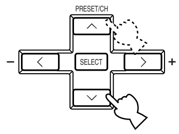
1 AMPキーを押す。



(ソース再生中)

2 ディレイタイムを調節したい音場プログラムを選ぶ。

3 ∧ キーまたは ∨ キーを押す。
ディスプレイに DELAY が表示されます。





4 ＜または＞キーを押してディレイタイムを調節する。

ご注意

- ソースによっては、ディレイタイムを増減しすぎると、効果音が不自然になることがあります。
- ディレイタイム調節中は、再生中の音が一時的に途切れることがあります。

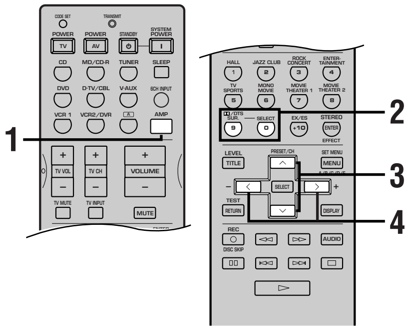
メモリーバックアップについて
本機の電源を切っても、セットした内容は消えずに記憶（メモリー）されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消え、工場出荷時の設定に戻ります。その場合は、もう一度セットしなおしてください。

ドルビープロロジック II Music の設定値(パラメーター)を調節する

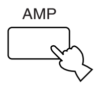
設定値(パラメーター)を変更する

ドルビープロロジック II Musicの設定値を調整して、リスニングルームの音場をアレンジできます。

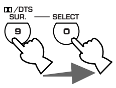
リモコンを使って調節してください。



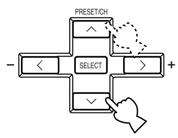
1 AMPキーを押す。



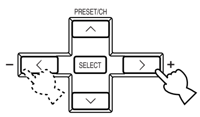
2 PRO LOGIC II Music を選択できるまで、数字キー 9 と 0 を押す。



3 ∧ キーまたは ∨ キーを押して、変更したい項目を選ぶ。



4 ＜キーまたは ＞キーを押して、設定値を変更する。



5 他の設定値を変更したいときは、手順3と4を繰り返す。

ご注意

セットメニュー「10 MEM. GUARD」がONに設定されている場合は、設定値を変更できません。

メモリーバックアップについて
本機の電源を切っても、セットした内容は消えずに記憶（メモリー）されます。ただし、1週間以上電源コードが電源コンセントからはずれていたり、電気が供給されなかった場合には、メモリーが消え、工場出荷時の設定に戻ります。その場合は、もう一度セットしなおしてください。

プロロジック II Music 設定値（パラメーター）一覧

パノラマ
■ PANORAMA

メインL、Rの音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

機能: ドルビープロロジックIIのフロント音場の広がりを調節します。

選択項目: OFF/ON、初期設定：OFF

ディメンション
■ DIMENSION

再生するソフトによって生じる、フロントとリアのレベル差を調節して、お好みのバランスにすることができます。

機能: ドルビープロロジックIIのサラウンド音場の、フロント側とリア側のレベル差を調節します。

可変範囲: —3 (リア方向へ強く)、＋３（フロント方向へ強く）
初期設定：STD（Standard）

ウィドス　センター　ウィドス
■ CT WIDTH (Center width)

センターからの音声を、お好みにあわせて左右に振り分けることができます。

機能: ドルビープロロジックIIのセンター音声の左右への広がりを調節します。

可変範囲: 0 (センターチャンネル音声がセンタースピーカーからのみ出力されます。) ～
7 (センターチャンネル音声がメインＬ、Ｒ スピーカーからのみ出力されます。)
初期設定：３

応用操作

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

■ 全般

症状	原因	解決方法	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	−
	「CHECK SP WIRES」と表示されているときは、スピーカーコードがショートした状態で電源を入れたため、保護回路が作動し電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	10, 11
	本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	本機をスタンバイ状態にし、電源コードを抜いて、約 30 秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。	−
音が出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	10〜17
	再生するソースの選択が適切でない。	INPUT ⊲ / ⊳ キー、6CH INPUTキーまたは入力選択キーで正しく選択をしてください。	22
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーの接続を確認してください。	10, 11
	SPEAKERS A/B スイッチが正しく設定されていない。	使用するスピーカーに対応する SPEAKERS A/B スイッチを ON に設定してください。	22
	音量が絞られている。	音量を大きくしてください。	23
	消音されている。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/−キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	23
	CD-ROM などを再生したため、本機で再生できないデジタル信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	−
画像が表示されない。	映像の出力側と入力側を異なった種類のビデオ端子で接続している。	入出力側とも、ビデオやSビデオ、コンポーネントビデオなど同じ種類の端子で接続してください。	13、14
音声が突然出なくなる。	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	41
	消音している。	リモコンのMUTE（消音）キーまたはVOLUME +/−キーなどを押して消音を取り消し、音量を調節してください。	23
片側チャンネルの音がほとんど出ない。	接続が不完全。	接続を確認してください。	10〜12
	セットメニューの「5 L/R BALANCE」が正しく設定されていない。	バランスを正しく設定しなおしてください。	47
メインスピーカー以外のスピーカーから音が出ない。	STEREOになっている。	STEREO/EFFECTキーを押して、音場効果を「入」（EFFECT）にしてください。	28
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS、AAC信号でエフェクト信号が入っていないソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	29〜36
	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号が本機に入力されている。	48kHzを超えるサンプリング周波数のデジタル信号入力時は、メインスピーカー以外のスピーカーから音は出ません。	24

症状	原因	解決方法	参照ページ
センタースピーカーから音が出ない。	センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	センタースピーカーの音量レベルを上げてください。	52
	セットメニューの「1A CENTER 」がNONになっている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください。	44
	Hi-Fi DSPプログラムNo.1～4（6ch Stereoを除く）を選択している。	別の音場プログラムを選択してください。	29～36
	ドルビーデジタルまたはDTS、AACソースにセンターチャンネル信号が含まれていない。		–
リアスピーカーから音が出ない。	リアスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	リアスピーカーの音量レベルを上げてください。	52
	音場プログラムのNo. 9でモノラルソースを再生している。	別の音場プログラムを選択してください。	29～36
スーパーウーファーから音が出ない。	セットメニューの「1E BASS」をMAINにしたまま、ドルビーデジタルやAAC、DTSソースを再生している。	SWFRまたはBOTHに設定してください。	45
	セットメニューの「1E BASS」をSWFRまたはMAINにしたまま、2チャンネルソースを再生している。	BOTHに設定してください。	45
	ソースにLFEなどの低音域の信号（90Hz以下）が含まれていない。		–
低音の再生不良。	スーパーウーファーを使用していないのにセットメニューの「1E BASS」がSWFRまたはBOTHに設定されている。	MAINに設定してください。	45
	セットメニューの各スピーカーのモード設定（メイン、センターまたはリア）がお使いのスピーカー構成と一致していない。	お使いのスピーカーの大きさをもとに、各スピーカーを適切な出力モードに設定してください。	19, 44, 45
リアセンタースピーカーから音が出ない。	セットメニューの「1C REAR LR」または「1D REAR CT」が NON に設定されている。	センタースピーカーモードを正しく設定してください。（LRG か SML を選択してください。）	45
	ドルビーデジタル EX か DTS-ES コンパチブルデコーダーが作動していない。	リモコンの EX/ES キーを押してデコーダーを作動させてください。	27
ハム音が出る。	ピンケーブルの接続が不完全。	ピンケーブルの接続を確認してください。	10 ～16
音量を上げることができない。または、音が歪んでいる。	本機のOUT (REC) 端子に接続している機器の電源が入っていない。	OUT (REC) 端子と接続している機器の電源が切れている場合には、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。接続機器の電源を入れてください。	–
音場効果を加えた音を録音できない。	音場効果を加えた音は録音できません。		–

症状	原因	解決方法	参照ページ
録音できない。	デジタル録音時にアナログソースを入力している。	デジタルソースを入力してください。	–
	本機と再生機器および録音機器がデジタル接続されていない。	デジタル接続してください。	12~15
	アナログ録音時にデジタルソースを入力している。	アナログソースを入力してください。	–
	本機と再生機器および録音機器が、アナログ接続されていない。	アナログ接続をしてください。	12~15
	録音機器によっては、ドルビーデジタルやDTS、AACなどのデジタルソースを録音できません。		–
スピーカーレベルやセットメニューなどの設定値を変更できない。	セットメニューの「10 MEM. GUARD」がONに設定されている。	OFFに設定してください。	48
本機が正常に作動しない。	内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている。	コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	本機がデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	本機をそれらの機器から離して設置してください。	–
使用中に突然電源が切れる。	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が作動し電源が切れた。	温度が下がるのを待って、電源を入れ直してください。	–
ドルビーデジタルまたはDTSの再生ができない（本機ディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSのインジケーターが点灯しない）。	接続したDVDプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのDVDプレーヤーなどの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。	–
セットメニューなどの設定内容が消えている。	1週間以上電源コンセントを抜いていたり、外部タイマーが切れたままになっていた。	1週間以上電源コンセントを抜いたままになっていると、内蔵メモリーの内容が消えてしまうことがあります。もう1度設定しなおしてください。	–

■ FM/AM放送の受信

	症状	原因	解決方法	参照ページ
FM	**ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい。**	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	アンテナの接続を確認してください。 FM屋外アンテナを多素子のものに変えてください。	16
			マニュアル選局をしてください。	37
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い。	マルチパス(多重反射)などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	–
	オート選局ができない。	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合に起きる。	マニュアル選局をしてください。	37
			屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください。	16
AM	**プリセット選曲ができない。**	プリセット(メモリー)が消えている。	もう一度プリセットしてください。	38, 39
	オート選局ができない。	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	16
			マニュアル選局をしてください。	37
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る。	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	16
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る（特に夕方に）。	本機の近くでテレビを使用している。	本機からテレビを離してください。	–

■ リモコン

症状	原因	解決方法	参照ページ
リモコンで操作できない。	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	7
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明（インバーター蛍光灯など）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池を全て交換してください。	3
	操作する機器が選択されていない。	入力選択キーを押して、操作したい機器を選択してください。	49
本機がリモコンで操作できない。	本機が操作できるモードに切り替わっていない。	リモコンのAMPキーを押してから操作してください。	–
外部機器がリモコンで操作できない。	システムコンポーネントは操作できません。	お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。	–
	メーカーコードが正しく設定されていない。	メーカーコードを設定しなおしてください。	50
		同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	50, 63
	メーカーコードを正しく設定しても、メーカーまたはモデルによっては機器を操作できません。	お使いの機器に付属するリモコンで操作してください。	–

ご注意

- 本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されています。信号発生器やテストディスクの信号またはパソコン用のCD-ROMなどを再生すると、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。
- デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器を接続すると、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。

用語解説

信号処理関連

サイレントシアター

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマDSP

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。

ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、左右2つのメインチャンネル(ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル(モノラル音声)、効果音のリアチャンネル(モノラル音声)の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。リアチャンネルの再生域は狭くなっています。

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

ドルビーデジタルサラウンドEX

本機は5.1チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて6.1チャンネル再生を可能にするドルビーデジタルサラウンド EX ソフト対応のドルビーデジタル EX デコーダーを内蔵しています。(リアセンターチャンネルはリア L とリア R チャンネルから作られます。) ドルビーデジタルサラウンド EX で録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

ドルビーデジタル5.1チャンネル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル(L、R、センター)と、リアのステレオ2チャンネル、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。

リアがステレオ2チャンネルで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。

ドルビープロロジックII

2チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードが用意されています。従来の2チャンネル音声(モノラル音声を除く)だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

バーチャルシネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

リアスピーカーを設置していなくとも、仮想的にリアスピーカーの音場を再現することで、メインL、Rスピーカーだけで音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、メインL、Rの2スピーカーシステムでバーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

AAC（アドバンスト　オーディオ コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の1つで、BSデジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

本機はAACデコーダーを搭載しているので、BSデジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード(復号)して再生できます。

DTS（デジタル・シアター・システムズ）デジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。この技術を家庭用に調整したものが、本機で採用しているDTSシステムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の6チャンネル(メインL、R、センター、2つのリアチャンネル、スーパーウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル)で構成されています。

本機は 5.1 チャンネルのソースにリアセンターチャンネルを加えて 6.1 チャンネル再生を可能にする DTS-ESコンパチブルデコーダーを内蔵しています。(リアセンターチャンネルはリア L とリア R チャンネルから作られます。)

LFE（ローフリケンシーエフェクト）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

ビデオ関連

コンポーネントビデオ信号

映像信号を「輝度を表す信号：Y信号」と「色を表す信号：P_B/C_BおよびP_R/C_R信号」の3系統に分けて伝送します。それぞれの信号を独立して伝送するため、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネント信号は、色信号から輝度信号を引いているので色差信号とも呼ばれます。

コンポーネント信号を出力するには、コンポーネント入出力のあるモニターと再生機器が必要です。

Sビデオ信号

Sビデオ信号は、通常ならピンコードで伝送される映像信号を、専用のSビデオコードを使って、輝度を表すY信号と色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S VIDEO端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

オーディオ関連

サンプリング周波数／量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、１秒間にサンプリング(信号の大きさを数値に置き換えること)を行う回数をサンプリング周波数といい、音の大きさを数値化するときのきめの細かさを量子化ビット数といいます。

再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まります。原理的には、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音･伝送する方式です。「PCM」は、パルス･コード･モジュレーションの略で、アナログ信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。

音楽CDやDVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える(サンプリング)手法を用いています。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz～20kHz、0.06%THD）
　メイン L/R .... 75W＋75W
　センター 75W
　リア L/R 各75W
　リアセンター 75W

実用最大出力（6Ω、EIAJ、1kHz、10%THD）
　メイン L/R .... 110W+110W
　センター 110W
　リア L/R 各110W
　リアセンター 110W

ダイナミックパワー（IHF、6/4/2Ω）
　メイン　L/R 105/125/150W

ダンピングファクター（8Ω、20Hz～20kHz）
　メイン　L/R 80以上

周波数特性
　（CD他－メイン）............. 10Hz～100kHz、－3dB

全高調波歪率（8Ω、20Hz～20kHz、45W）
　（CD－音場効果「切」、メイン SP OUT）0.06%以下

S/N（IHF-Aネットワーク、入力ショート）
　CD－メイン SP OUT、音場効果「切」、
　250mV入力 100dB以上

残留ノイズ（IHF-Aネットワーク）
　メインL/R SP OUT 150μV以下

チャンネルセパレーション
（1kHz/10kHz、5.1kΩターミネート）
　CD他 60dB以上/45dB以上

トーンコントロール（メイン　L/R）
　BASS .... ±10dB/50Hz
　TREBLE .... ±10dB/20kHz

ヘッドホン出力／出力インピーダンス ...0.34V/560Ω

入力感度／入力インピーダンス（アナログ）
　CD他 150mV/47kΩ
　6CH INPUT 150mV/47kΩ

出力電圧／出力インピーダンス（アナログ）
　REC OUT 150mV/1.2kΩ
　PRE OUT 2.2V/1.2kΩ
　SUB WOOFER 4.0V/1.2kΩ

A/Dコンバーター
　64倍オーバーサンプリング⊿Σ方式 24ビット

D/Aコンバーター
　128倍オーバーサンプリング⊿Σ方式 24ビット

ビデオ部

ビデオ信号方式 .... NTSC

ビデオ信号レベル
　VIDEO 1Vp-p/75Ω
　S-VIDEO
　　Y 1Vp-p/75Ω
　　C 0.286Vp-p/75Ω
　COMPONENT VIDEO
　　Y 1Vp-p/75Ω
　　C_B/C_R 0.7Vp-p/75Ω

S/N 50dB以上

周波数特性（MONITOR OUT）
　VIDEO .... 5Hz～10MHz、－3dB
　S-VIDEO .... 5Hz～10MHz、－3dB
　COMPONENT VIDEO .... DC～30MHz、－3dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz

50dB S/N感度（1kHz、100%変調）
　モノ .... 2.0μV（17.3dBf）
　ステレオ .... 25μV（39.2dBf）

実効選択度（400kHz） 70dB

S/N（IHF、モノ／ステレオ） 76dB/70dB

歪率（1kHz、モノ／ステレオ） 0.2%/0.3%

ステレオセパレーション（1kHz） 45dB

周波数特性 .... 20Hz～15kHz、+0.5、－2dB

AMチューナー部

受信周波数 .... 531kHz～1611kHz

実用感度 300μV/m

総合

電源電圧 .... AC100V、50/60Hz

消費電力 230W

待機電力 0.6W

ACアウトレット（電源スイッチ連動、合計100W） 2

寸法（幅X高さX奥行き） 435X161X390mm

重量 11.5kg

付属品
　3ページをご覧ください。

仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。
「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省･資源エネルギー庁の定めた「家電･汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計･製造した製品です。

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のメーカーコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。

TV

AIWA	1481
FUNAI	1341, 1361, 1411, 1451
GENERAL	1291
HITACHI	1351
MITSUBISHI	1381
NEC	1321
PANASONIC	1311, 1371, 1431
PIONEER	1331
SAMSUNG	1461
SANYO	1231, 1251, 1261
SHARP	1241, 1271
SONY	1281, 1441
TOSHIBA	1301
VICTOR	1201, 1211, 1221
ベスト	1321, 1341, 1361, 1411, 1451, 1461, 1471
YAMAHA	0361, 1031, 1111

ケーブルTVチューナー

Pioneer	0006, 0086

BSデジタルチューナー

PANASONIC	0896
SONY	0906
TOSHIBA	0916

テープデッキ

AIWA	0094, 0214, 0224
AKAI	0184
CARVER	0094
DENON	0304
FISHER	0144
GARRARD	0194, 0204
KENWOOD	0124, 0134, 0154, 0234, 0244, 0264
MAGNAVOX	0094
MARANTZ	0094, 0344
MITSUBISHI	0184
ONKYO	0364, 0374
OPTIMUS	0034, 0064, 0204, 0334
PHILIPS	0094
PIONEER	0034, 0044, 0064
REVOX	0354
SANSUI	0094, 0344
SHARP	0264
SHERWOOD	0334
SONY	0054, 0084, 0324
TEAC	0194, 0254
TECHNICS	0074, 0314
VICTOR	0274, 0284, 0294
WARDS	0034
YAMAHA	0004, 0014, 0104, 0114, 0164, 0174, 0264

ビデオデッキ

HITACHI	0102, 0562, 0572, 0582, 0592, 0602, 0992
MITSUBISHI	0452, 0462, 0542, 0762, 0952, 1082
NEC	0122, 0202, 0292, 0422, 0432, 0542, 0632
PANASONIC	0012, 0052, 0092, 0222, 0372, 0382, 0392, 0412, 0932
SANYO	0242, 0612, 0842, 0902, 0922
SHARP	0402, 0472
SONY	0032, 0332, 0352, 0362, 0672, 0792, 0932
TOSHIBA	0062, 0302, 0342, 0622, 0682, 0712, 0762
VICTOR	0202, 0522, 0532, 0542, 0552
YAMAHA	0202, 0632

DVD プレーヤー

DENON	0188
HITACHI	0198
KENWOOD	0148
ONKYO	0068, 0128
PANASONIC	0028
PHILIPS	0098, 0128
PIONEER	0108, 0118
SAMSUNG	0078
SHARP	0038
SONY	0018
TOSHIBA	0048, 0128
VICTOR	0088, 0178
YAMAHA	0008, 0028, 0098

LD プレーヤー

PIONEER	0017, 0037, 0137
SONY	0047, 0057, 0117
YAMAHA	0007, 0067

CD プレーヤー

ACOUSTIC RESEARCH	1295
ADC	0025, 0065
ADCOM	0205, 0255, 1015
AIWA	0295, 0945, 1035, 1055
AKAI	0175, 0485, 0535
AUDIO-TECHNICA	0545
BSR	0245, 0655, 0775
CALIFORNIA AUDIO LAB	0055
CARVER	0285, 1135
CROWN	0185
DENON	0275, 0875, 0885
EMERSON	0205, 0325, 1105
FISHER	0095, 0555, 0925, 1005
GARRARD	0365
GENEXXA	0305, 0325, 1105
HARMAN/KARDON	0105, 0175, 0465, 0995
HITACHI	0195, 0205, 0505, 0815
KENWOOD	0045, 0095, 0405, 0585, 0725, 0735, 0745, 0755, 0895
KYOCERA	0025
LUXMAN	0075, 0425, 0675, 0705, 0715, 0985
MAGNAVOX	0165, 0215, 0645, 0955
MARANTZ	0215, 0235, 0375, 0785, 1345
MCINTOSH	0355, 1085
MCS	0905, 1315
MEMOREX	0205, 0225, 0235, 0305, 0325, 1105
MISSION	0215
MITSUBISHI	0135, 0445
MTC	1255
NAD	0035, 0615, 0685, 0695
NAKAMICHI	0125, 0435, 0515
NEC	0255, 0905, 0965
NIKKO	0545, 1005
ONKYO	0155, 0455, 0495, 0805, 1155
OPTIMUS	0225, 0245, 0555, 0595, 0845, 0855, 0865, 0895, 0935
PANASONIC	0055, 0825, 1095, 1125
PHILIPS	0165, 0215
PIONEER	0305, 0935, 1045
PROTON	0215, 1185
QUASAR	0055
RCA	0205, 0915, 1115
REALISTIC	0205, 0225, 0235, 0325, 0555, 0845
REVOX	1175
ROTEL	0215
SAE	0215
SANSUI	0215, 0625, 0975, 1025, 1105
SANYO	0145, 0555, 0635, 0765
SCOTT	0325, 1105
SEARS	0345
SHARP	0235, 0665, 0895, 1065, 1075
SHERWOOD	0115, 0235, 0395, 0475
SONY	0065, 0565, 0865, 1145
STS	0025
TEAC	0235, 0335, 0385, 0525, 0795, 0835, 1355
TECHNICS	0055, 0605, 1095
VICTOR	0315
WARDS	0175
YAMAHA	0005, 0015, 0085, 0415, 0545, 0575, 1065

CD レコーダー/CD-RW

HITACHI	0474
MARANTZ	0484, 0494
PHILIPS	0444
PIONEER	0454, 0464
VICTOR	0504
YAMAHA	0414

MD レコーダー

KENWOOD	0384
PIONEER	0424
SHARP	0434
SONY	0394
YAMAHA	0024, 0394, 0404

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

保証期間

お買い上げ日より1年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

修理料金の仕組み

- **技術料**：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- **部品代**：修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- **出張料**：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。(品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。)

スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ
http://www.yamaha.co.jp/audio/

ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL　(0570) 01 − 1808 (ナビダイヤル)
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL　(053) 460 − 3409

FAX　(053) 460 − 2777
住所　〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1
ご相談受付時間　10:00〜12:00，13:00〜18:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは

(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道	〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)512 - 6108
仙　台	〒984-0015　仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236 - 0249
首都圏	〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F TEL(03)5762 - 2121
浜　松	〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL(053)465 - 6711
名古屋	〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL(052)652 - 2230
大　阪	〒565-0803 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL(06)6877 - 5262
広　島	〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL(082)874 - 3787
四　国	〒760-0029 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内 TEL(087)822 - 3045
九　州	〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

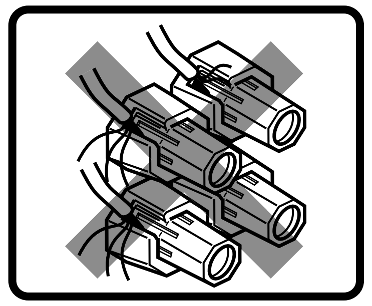
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Printed in Malaysia VIDEO V874540-1

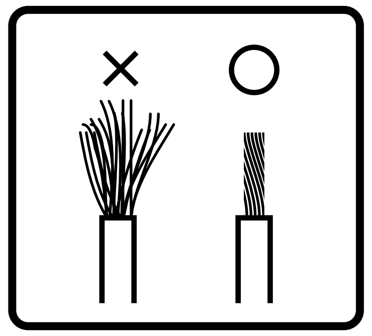
YAMAHA

DSP-AX630
簡易接続ガイド

DVD プレーヤーを接続して、5.1 チャンネルのデジタルソースを楽しむための基本的な接続のしかたと、MD レコーダーを接続して、音声を再生／録音するための接続のしかたを説明します。



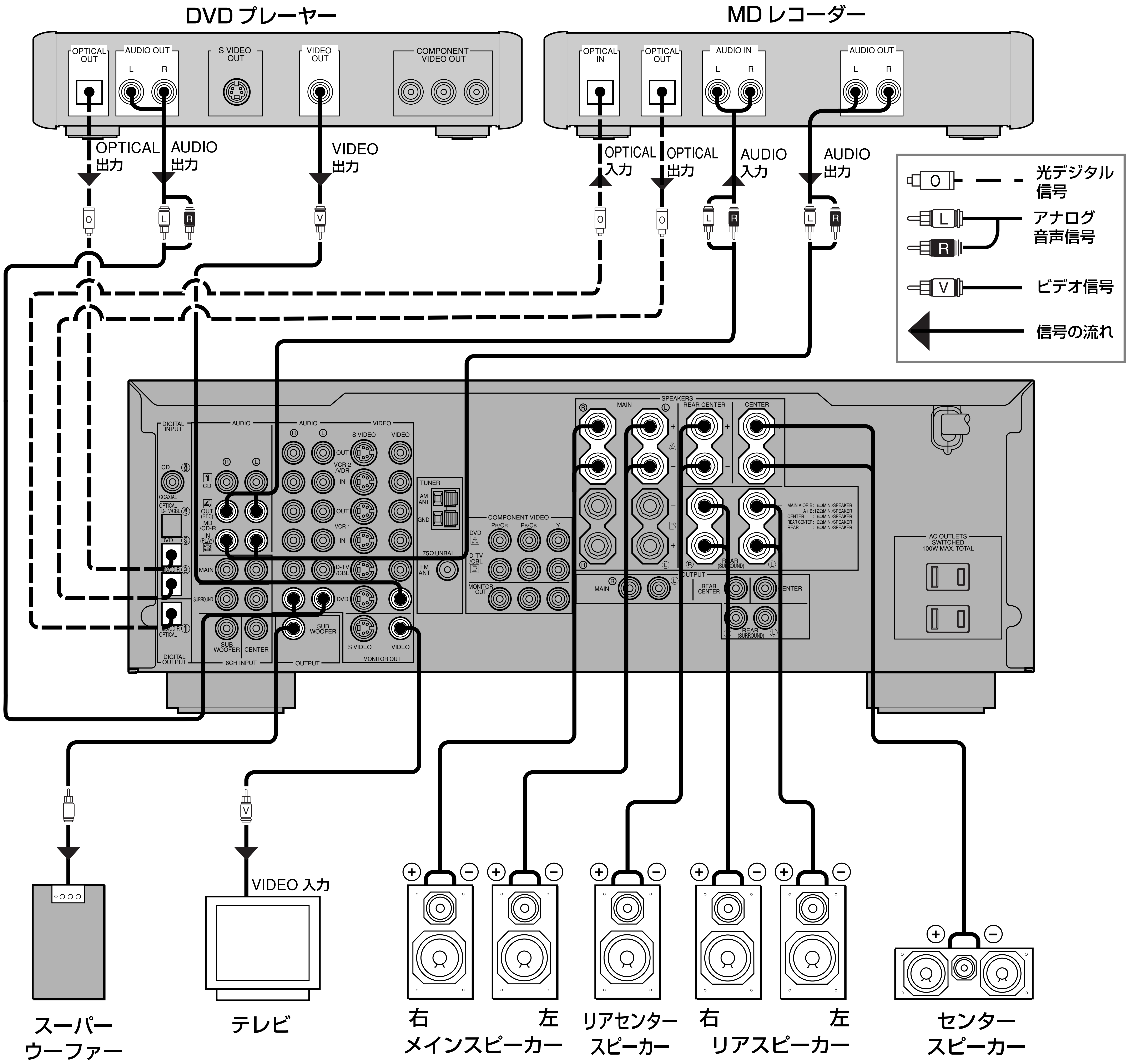
スピーカーコードを接続する場合は、ショートしないように注意してください。



芯線をしっかりとよじらないと、ショート(短絡)の原因になります。

ご注意

- 本機はデジタル信号回路とアナログ信号回路が独立しているため、アナログ入力信号はアナログ出力端子から、デジタル入力信号はデジタル出力端子からのみ出力されます。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に作動しないことがあります。



Printed in Malaysia V874560